

教育内容	専門分野 基礎看護学	時期 1年次	科目のねらい			
授業科目	看護学概論	単位 1単位	「看護とはなにか」「看護師とはどのような職業か」について学び、看護を志す初学者としての基本的な考え方を身につける			
担当講師	藤尾 泰子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	看護とは	看護学科授業科目、基礎看護学 看護師のイメージ 看護師とは、看護とは	講義・演習	藤尾	
	2	近代看護の確立	ナイチンゲールによる近代看護の確立 看護覚え書き構成ごとの学習			
	3	看護覚え書き	看護覚え書きGW	演習		事前課題 看護覚え書き要約
	4	看護の主要概念	看護を構成する主要概念:人間・健康・環境・看護	講義・演習		事前課題 自分が考える主要概念 事後課題:主要概念図式
	5	看護の役割・機能 看護の対象	看護の役割と機能 ケアリング、看護の質保証に欠かせない要件 看護の継続性・連携 看護の対象理解	講義		
	6	人間の暮らし	人間の「暮らし」の理解 健康のとらえ方と国民の健康状態	講義		事前課題 自分らしい生活
	7	看護理論	看護理論とは 看護理論の範囲 さまざまな看護理論	講義・演習		
	8	看護史	看護の変遷 世界の看護・日本の看護の歴史	講義		
	9	看護職者	職業としての看護 看護職者の資格、養成制度、就業状況 看護職の養成制度	講義		
	10	看護の提供のしくみ	看護職者の継続教育とキャリア形成 看護サービスの提供の場、場におけるサービス 看護サービスのかかわる法制度 看護サービス管理	講義		
	11	看護倫理	ジレンマとは 倫理とは 職業倫理としての看護倫理 専門職に求められる倫理 専門職の倫理綱領	講義・演習		事後課題 倫理綱領から自己が目指す看護師像、学習への取り組み
	12	生命倫理	生命倫理、生命倫理の歴史 生命倫理の原則、看護の倫理原則 倫理的ジレンマ、道徳的苦悩 ケアの倫理、倫理的態度	講義・演習		
	13	医療安全	医療事故・医療過誤 看護業務の特性と医療事故 インシデント・アクシデント・ヒヤリハット リスクマネジメント ヒューマンエラーと事故防止	講義・演習		
	14	国際看護・災害看護	国際化と看護 異文化理解	講義		
	15	災害看護	災害時における看護	講義(45分)		
16	終講試験	筆記試験	試験(45分)			
評価方法	筆記試験(10割) 課題提出状況 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 看護のための人間発達学 第5版 医学書院 看護覚え書 本当の看護とそうでない看護 日本看護協会出版会					

教育内容	専門分野 基礎看護学	時期 1年次	科目のねらい			
授業科目	共通看護技術 I	単位 1単位	看護技術の概念について理解し、看護技術の基本となるコミュニケーション技術を身につける また、感染予防のための知識・技術とともに、対象の意思決定や主体的な参画を支援する学習支援について学ぶ			
担当講師	小林 理絵 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上 田中 好恵 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:5年未満	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場面に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる 3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	看護実践のための技術	1. 看護技術とは ① 技術とは ② 看護技術の特徴 ③ 看護技術の範囲 ④ 看護技術を適切に実施するための要素 ⑤ 看護技術の発展と習得のために	講義	小西純子	
	2	療養生活の環境	2. 療養生活の環境 ①療養生活の環境 ②病室の環境のアセスメントと調整 安全な療養環境の整備の技術 ①転倒・転落・外傷予防 ・白衣着用時の身だしなみについて	講義	小西純子	
	3	標準予防策 (スタンダードプリコーション)1	感染防止の基礎知識 標準予防策 ①スタンダードプリコーションに基づく手洗いの技術	講義 演習	田中 好恵	【事前学習】手指衛生
	4	環境調整技術1	②ベッドメイキング	演習	小西純子	【事前学習】ベッドメイキング
	5	環境調整技術2	③臥床患者のリネン交換の技術	演習	小西純子	【事前学習】リネン交換
	6	苦痛の緩和・安楽確保の技術	電法 ①電法の技術	講義 演習	田中 好恵	【事前学習】電法
	7	看護者としての関係構築のための コミュニケーション	2. 関係構築のためのコミュニケーション ① コミュニケーションとは ② コミュニケーションの構成要素 ③ ミスコミュニケーションについて ④ 医療におけるコミュニケーションの特徴 ⑤ 接近的行動とその実際	講義	小林 理絵	【事前学習】 第1章 コミュニケーション
	8	対象との関わりを効果的にする コミュニケーション1	3. 効果的なコミュニケーション ① マイクロカウンセリング技法:傾聴 ② 情報収集の技術 ③ アサーティブネス ④ プロセスレコードとその振り返り	講義	小林 理絵	【事後課題】 プロセスレコード
	9	対象との関わりを効果的にする コミュニケーション2 多職種連携のための コミュニケーション	4. ベッドサイドでのコミュニケーション 5. コミュニケーション障害への対応 6. 効果的なカンファレンスのあり方 ① カンファレンスとは	講義 GW	小林 理絵	
	10	感染経路別予防策 洗浄・消毒・滅菌	洗浄・消毒・滅菌 感染性廃棄物の取り扱い カテーテル関連血流感染対策	講義	田中 好恵	
	11	標準予防策 (スタンダードプリコーション)2	必要な防護用具の選択、着脱の技術 使用した器具の感染防止の取り扱いの技術 ②個人防護用具装着 (手袋、エプロン、ガウン、ゴーグル) ③感染性廃棄物の取り扱い、無菌操作の技術	講義	田中 好恵	【事前学習】 個人防護用具装着
	12	無菌操作の技術	①滅菌物の取り扱い ②無菌操作 ③使用した器具の取り扱い ④個人防護用具装着 (鑑子の取り扱い、綿球の受け渡し)(滅菌手袋、滅菌ガウンの着脱) (手袋、エプロン、ガウン、ゴーグルの着脱)	演習	田中 好恵	
	13	看護における学習支援	学習支援とは 学習支援の実際(家庭/学校/職場/地域) 健康状態に応じた学習支援の実際 (外来/入院時/退院時/個人/家族/集団)	講義	小林 理絵	【事前学習】 第6章 学習支援 【事後課題】 事例に応じた指導計画
	14	学習支援ワーク1	事例に応じた学習支援のロールプレイング	グループワーク 発表	小林 理絵	【事後課題】 事例に応じた指導計画
	15	学習支援ワーク2(45分)	事例に応じた学習支援のロールプレイング	グループワーク 発表	小林 理絵	
16	終講試験		試験(45分)			
評価方法	筆記試験:終講試験75点、学習状況15点(課題・演習・出席状況など) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II 医学書院 看護技術プラクティス 第4版 学研					

教育内容	専門分野 基礎看護学	時期 1年次	科目のねらい			
授業科目	共通看護技術Ⅱ	単位 1単位	看護援助技術を対象の状態に合わせて適切に実施する能力を身につけるために、活動と休息・睡眠の援助、安楽確保の技術、清潔および衣生活援助技術について学ぶ			
担当講師	西山 友佳 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:5年未満	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	活動・休息の援助技術 基本的活動の援助 苦痛の緩和・安楽確保の技術 ポジショニング 睡眠・休息の援助	基本的活動の援助 基本的活動の基礎知識、体位 苦痛の緩和・安楽確保の技術 ①体位の保持の技術(ポジショニング) ②褥瘡予防ケアの技術 ③安楽な体位の調整の技術 ④安楽の促進・苦痛の緩和のためのケア 睡眠・休息の援助	講義	西山 友佳	
	2	活動・休息の援助技術 移動の援助	活動・休息の援助技術 移動(体位変換・歩行・移乗・移送)	講義		
	3	体位変換、ポジショニング演習	車椅子・ストレッチャーの移乗介助・移送の技術 体位変換、ポジショニングの技術	演習		
	4	移乗・移送演習	車椅子・ストレッチャーの移乗・移送、杖歩行の介助	演習		
	5	病床での衣生活の援助	援助の基礎知識 衣服を用いることの意義 熱産生と熱放散 被覆気候 衣生活に関するニーズのアセスメント 病衣の選び方 病衣・寝衣の交換	講義		
	6	寝衣交換演習	寝衣交換の技術・整容の技術	演習		
	7	清潔の援助の基礎知識 清潔の援助の実際	清潔の援助の基礎知識 皮膚・粘膜の構造と機能 清潔援助の効果 患者の状態に応じた援助の決定と留意点 入浴、シャワー浴、全身清拭	講義		
	8 9	全身清拭演習	全身清拭演習	演習 演習(45分)		
	10	清潔の援助の実際 洗髪・口腔ケア	洗髪とは・口腔ケアとは	講義		
	11	清潔の援助の実際 部分浴、陰部洗浄	部分浴(足浴・手浴)・陰部洗浄とは	講義		
	12	洗髪演習	洗髪の技術・整容の技術	演習		
	13	口腔ケア講義・演習	口腔ケアとは 口腔ケアの技術	講義・演習		
	14	足浴演習	部分浴の技術 足浴	演習		
	15	陰部洗浄演習	陰部洗浄の技術	演習		
	16	終講試験	筆記試験	試験(45分)		
評価方法	筆記試験(8割) レポート(2割)					
	系統看護学講座 専門分野	基礎看護学[2]	基礎看護技術Ⅰ	医学書院		
	系統看護学講座 専門分野	基礎看護学[3]	基礎看護技術Ⅱ	医学書院		
	看護技術プラクティス 第4版	学研				

教育内容	専門分野 基礎看護学	時期 1年次	科目のねらい			
授業科目	共通看護技術Ⅲ	単位 1単位	看護援助技術を対象の状態に合わせて適切に実施する能力を身につけるために、食事援助技術、排泄の援助技術について学ぶ			
担当講師	土井 円香 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:5年未満	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	食事援助の基礎知識	食事の意義 食事に必要なメカニズム	講義	土井 円香	
	2	栄養の評価	栄養状態および食欲、摂食能力のアセスメント	講義	土井 円香	
	3	食事の援助	食事介助の基礎知識、実際 摂食嚥下訓練の基礎知識、実際	講義	土井 円香	
	4	食事の援助	食事指導・食事介助の技術	演習	土井 円香	
	5	非経口的栄養摂取	非経口的栄養摂取の援助 経管栄養法 中心静脈栄養法	講義	土井 円香	
	6	非経口的栄養摂取	経管栄養法 経管栄養法による流動食の注入の技術 経鼻胃チューブの挿入の技術	演習	土井 円香	
	7	排泄の援助の基礎知識	排泄援助に対する基礎知識 排泄の意義とメカニズム 排泄の観察とアセスメント	講義	土井 円香	
	8	排泄援助方法	トイレ・ポータブルトイレでの排泄援助方法 床上排泄の援助方法	講義	土井 円香	
	9	排泄機能障害がある対象への援助①	おむつによる排泄援助	講義・演習	土井 円香	
	10	自然な排泄を促す援助の実際	床上排泄援助の実際 排泄援助(床上、ポータブルトイレ、おむつなど)の技術	演習	土井 円香	
	11	排泄機能障害がある対象への援助②	導尿・摘便による排泄援助	講義	土井 円香	
	12	持続的導尿の実際	膀胱留置カテーテルの挿入の技術 膀胱留置カテーテルの管理の技術	演習	土井 円香	
	13	排泄機能障害がある対象への援助③	浣腸・ストーマケアによる排泄援助	講義	土井 円香	
	14	浣腸の実際	グリセリン浣腸の技術	演習	土井 円香	
	15	まとめ	これまでの講義内容のまとめ	講義(45分)	土井 円香	
16	最終試験	筆記試験	試験(45分)			
評価方法	筆記試験(7割) 受講態度・レポート演習前後の課題(3割)					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 第4版 学研					

教育内容	専門分野 基礎看護学	時期 1年次	科目のねらい				
授業科目	ヘルスアセスメント	単位 1単位	対象の状況を把握するためのヘルスアセスメントを学ぶ				
担当講師	長澤 亜由美 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上 西山 友佳 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:5年未満	時間数 30時間					
教育目標	2 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉え、環境との相互関係の中で、変化しながら生活する存在として理解できる能力を養う						
	3 人々の健康上の課題に応じて、科学的根拠に基づいた看護を展開できる基礎的能力を養う						
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考	
	1	ヘルスアセスメント 観察・記録・報告	ヘルスアセスメントとは ヘルスアセスメントの意義、目的 ヘルスアセスメントに必要な技術 ヘルスアセスメントの実際 全体を概観する・健康歴の聴取 フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーション 観察・記録・報告の意味	講義	長澤 亜由美	【事前学習】 バイタルサイン測定	
	2	バイタルサインについて	バイタルサインとは バイタルサインを測定する意義、目的 バイタルサインの変動因子 バイタルサイン測定の実際 (血圧、脈拍、呼吸、体温、意識)	講義			
	3	身体計測	身体的状態のアセスメント 身体計測 身体のみかた:視診・触診・打診・聴診・問診	講義・演習			
	4	呼吸器のフィジカルアセスメント	呼吸器系のフィジカルアセスメントとフィジカルイグザミネーション	講義・演習			
	5 6	バイタルサイン測定演習	血圧測定	演習 演習(45分)			【事後学習】 バイタルサイン測定の 振り返り
	7	バイタルサイン測定演習	体温、脈拍数、呼吸数、血圧測定	演習			
	8	バイタルサイン技術チェック	バイタルサイン測定	技術チェック			【レポート課題】 問診、視診、触診、聴診、打診についてのまとめ学習
	9	循環器のフィジカルアセスメント	循環器系のフィジカルアセスメントとフィジカルイグザミネーション	講義・演習			
	10	腹部のフィジカルアセスメント 乳房・生殖器のフィジカルアセスメント	腹部のフィジカルアセスメントとフィジカルイグザミネーション 乳房・生殖器のフィジカルアセスメントとフィジカルイグザミネーション	講義・演習			
	11	骨格筋系のフィジカルアセスメント	骨格筋系のフィジカルアセスメントとフィジカルイグザミネーション ROM MMT	講義・演習			
	12	頭部・頸部・感覚器系の フィジカルアセスメント	頭部・頸部・感覚器系のフィジカルアセスメントとフィジカルイグザミネーション	講義			
	13	心理・社会のアセスメント	事例を用いた心理・社会のアセスメント	講義			
	14	症状のアセスメント	事例を用いた身体面のアセスメント	講義 演習	【レポート課題】 全体像		
	15	症状のアセスメント	・基本情報 ・経過表 ・情報収集 ・援助計画の立案 ・個性のあるバイタルサイン測定、フィジカルアセスメント (疾患・症状に応じたフィジカルアセスメント、清拭)				
	16	終講試験	筆記試験	試験(45分)			
評価方法	筆記試験(7割) 実技点(1割) レポート(2割)						
	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院 看護技術プラクティス 第4版 学研 フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院						

教育内容	専門分野 基礎看護学	時期 1年次	科目のねらい			
授業科目	看護の思考過程	単位 1単位	看護実践するための看護過程の展開技術を身につける			
担当講師	大西 恵梨 看護師臨床経験:8年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	看護過程とは	1. 看護過程の5つの構成要素 2. 5つの構成要素の関係性 3. 看護過程を用いることの利点	講義・演習	大西 恵梨	事前課題 事後課題あり (随時指示します)
	2	看護過程を展開する際に 基盤となる考え方 看護記録	1. 問題解決過程 2. クリティカルシンキング 3. 倫理的配慮と価値判断 4. リフレクション 5. 看護記録とは 6. 記録・管理における留意点 7. 看護記録の構成	講義・演習		
	3	看護過程の各段階	アセスメント(情報の収集と分析) 概説:情報収集・整理、情報の分析、全体像とは	講義		
	4		アセスメント(情報の収集と分析)	演習		
	5		事例を使った演習・解説			
	6					
	7		看護問題の明確化(看護診断) 概説:看護問題の見極め、看護問題と看護診断 看護問題の種類、看護問題の表記方法 優先順位、共同問題、看護問題リスト	講義		
	8		看護問題の明確化(看護診断) 事例を使った演習・解説	演習		
	9		看護計画の立案 概説:期待される成果の明確化、介入方法の検討	講義		
	10		看護計画の立案 事例を使った演習・解説	演習		
	11		実施、評価 概説:実施の流れ、実施と記録、評価の方法 最終要約	講義		
	12		実施、評価	演習		
	13		事例を使った演習・解説			
	14	まとめ①	看護過程展開の復習	講義・演習		
	15	まとめ②	看護過程展開の復習、基礎統合演習に向けて(45分)	講義(45分)		
16	終講試験	筆記試験	試験(45分)			
評価方法	筆記試験(7割) 学習状況(課題・演習など3割)					
テキスト	看護過程の解体新書 学研 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院 その他 医学書院のテキスト全般					

教育内容	専門分野 基礎看護学	時期 1年次	科目のねらい				
授業科目	経過に応じた基本技術Ⅰ	単位 1単位	看護援助技術を対象の状態に合わせて適切に実施する能力を身につけるために、創傷管理技術、呼吸・循環を整える援助技術、死の看取りの援助について学ぶ				
担当講師	羽賀田 千晶 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:5年未満 西山 玲子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間					
教育目標	2 さまざまな場面に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる						
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる						
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる						
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる						
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考	
	1	創傷管理技術	創傷管理の基礎知識 (創傷処置/ドレッシング材管理/包帯法)	講義	羽賀田 千晶	事前学習と演習後の振り返りシートを記載	
	2	創傷管理技術	褥瘡予防の基礎知識 (褥瘡発生要因/判定スケール/褥瘡予防ケア)	講義			
	3	創傷管理技術	創傷処置(ガーゼの当て方・テープの剥離・貼付法)と包帯法	演習			
	4	呼吸・循環を整える援助技術	酸素吸入療法/酸素ボンベの取扱い 排痰ケアの基礎知識と実際 (体位ドレナージ/スクイーピング/咳嗽介助 ハフイング) 吸入療法の基礎知識と援助の実際	講義 講義45分	西山 玲子	事前学習と演習後の振り返りシートを記載	
	5						
	6	呼吸・循環を整える援助技術	吸入の技術 酸素吸入療法の実施(酸素ボンベの取り扱い) ネプライザーを用いた気道内加湿	演習			
	7	呼吸・循環を整える援助技術	口腔・鼻腔内吸引	講義			
	8	呼吸・循環を整える援助技術	吸引の技術 口腔内・鼻腔内吸引	演習			
	9	呼吸・循環を整える援助技術	持続吸引(胸腔ドレナージ) 人工呼吸療法	講義			
	10	呼吸・循環を整える援助技術	体温管理の技術 末梢循環促進ケア	講義			
	11	診察・検査・処置における技術	診察の介助 検査・処置の介助 X線撮影・コンピューター断層撮影:磁気共鳴画像 内視鏡検査・超音波検査・肺機能検査 核医学検査・穿刺	講義			長澤 亜由美
	12	症状・生体機能管理技術	症状・生体機能管理技術の基礎知識 検体検査 尿検査・便検査・喀痰検査	講義			佐野 和美
	13	症状・生体機能管理技術	生体情報のモニタリング 心電図検査 心電図モニター	講義			
	14	症状・生体機能管理技術	SpO ² モニター 血管留置カテーテルモニター	講義			
	15	死の看取りの援助	死にゆく人と周囲の人々へのケア 死後の処置の在り方 死後の処置	講義	長澤 亜由美		
16	終講試験	筆記試験	試験45分	西山 玲子			
評価方法	筆記試験(8割) 事前学習と振り返りシート(2割)						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 第4版						

教育内容	専門分野 基礎看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	経過に応じた基本技術Ⅱ	1単位	看護援助技術を対象の状態に合わせて適切に実施する能力を身につけるための診察・検査・処置における技術を学ぶ			
担当講師	小西 純子 看護師臨床経験:5年以上 教育経験:5年以上 中本 早央里 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:5年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場面に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	検体検査 (静脈血採血、動脈血採血、血糖測定)	静脈内採血の目的 静脈内採血時の医師の役割 採血時に起こりうる事故と回避方法 静脈内採血の実際 検体の取り扱い 検査の介助	講義	中本早央里	
	2	検体検査(血糖測定の実際)	簡易血糖測定	演習		演習案課題あり
	3	静脈血採血の実際	静脈血採血の技術演習	演習		演習案課題あり
	4	薬物療法について	与薬の基礎知識 薬物療法の意義と看護師の役割 薬物療法の意義と目的 薬に関連した法令 薬物の種類 薬物の種類吸収・分布・代謝・排泄 薬理作用とその影響、副作用	講義	小西 純子	
	5	与薬法について1	経皮的与薬法(経口薬(パッカル錠・舌下錠・内服薬) 吸入法、単純塗擦法、点眼・点鼻・点耳法、	講義		
	6	与薬法について2	経路別与薬方法と実際 経口与薬法、口腔内与薬法、直著内与薬法	講義		
	7	与薬法について3	薬物療法の技術 (経口与薬・経皮与薬・麻薬の管理)	演習		演習案課題あり
	8	注射法について1	注射法とは:適応、メリット・デメリット、吸収速度の違い 注射の種類と目的・方法、合併症:皮内注射、皮下注射	講義		
	9	注射法について2	筋肉内注射、静脈内注射、輸液療法	講義		
	10.11	注射法の実際	注射法の技術の実施 (筋肉注射、皮下注射)	演習 45分演習		演習案課題あり
	12	輸液管理	輸液療法の実際(プライミング) 点滴静脈内注射の管理	講義	中本 早央里	
	13	輸液管理・輸血管理	輸液療法を受けている対象の看護 看護師の役割と法的役割 輸血法と輸血の管理 針刺し事故後の防止・事故後の対応 インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告	講義		
	14 15	静脈内注射、輸血の実際	静脈内注射、輸血の実施	演習		演習案課題あり
	16	終講試験	筆記試験	講義 試験(45分)		
	評価方法	筆記試験(8割) レポート(2割)				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 第4版 学研					

教育内容	専門分野 基礎看護学	時期 2年次後期	科目のねらい			
授業科目	家族看護論	単位 1単位	急性期医療、慢性期医療、エンドオブライフケア、遺族ケアなどさまざまな領域で家族看護のニーズの重要性が増している。家族全体を視野に入れた看護の必要性について学ぶ。			
担当講師	茶谷妙子 看護師臨床経験:10年以上	時間数 15時間				
教育目標	2	さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	3	人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
	4	生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	講師	備考
	1	家族看護とは 家族看護の対象理解①	家族看護を学ぶ必要性 家族看護の成立と発展過程 家族看護の特徴・定義・目的 家族とは	講義	茶谷 妙子	
	2	家族看護の対象理解②	家族構造と家族機能 事例をもとにジェノグラム・エコマップを描く	講義 演習		課題:テキスト①のP43ジェノグラムの表記法を確認しておくこと
	3	家族を支える理論	家族システム理論 家族ストレス対処理論 家族の発達段階と課題	講義 演習		前回授業中に出した事例のジェノグラム・エコマップを完成させておくこと。GWあり
	4	家族とかがかわるために	家族関係リテラシーを高める1-家族内のバウンダリー、支援者とのバウンダリー	講義		テキスト②P81～116を読んでおくこと。GWあり
	5	家族とかがかわるために	家族関係リテラシーを高める2-家族内のコミュニケーション	講義		テキスト②P156～193を読んでおくこと。GWあり
	6	家族看護アセスメント	さまざまな家族アセスメント	講義 演習		テキスト①第4章を読んでおくことGWあり
	7	家族看護の実践②	事例に基づく家族看護の実践 事例をもとに、アセスメントから支援の方策を導き出す	講義 演習		テキスト①第5章を読んでおくこと。授業中に課題提出あり。
8	終講試験	筆記試験				
評価方法	筆記試験(8割)		7時限目の課題提出(2割)			
テキスト	①系統看護学講座 別巻 家族看護学 医学書院 ②こじらせない家族:アサーションとバウンダリーから学ぶ正しい距離の保ち方 現代書館					

教育内容	専門分野 I 基礎看護学	時期 1年次	科目のねらい			
授業科目	基礎統合演習	単位 1単位	看護の思考過程およびヘルスアセスメント、共通看護技術 I～III、経過に応じた看護 I・II で習得した看護基本技術を統合させ、患者の状態に応じた看護ができる能力を身につける また、記録・報告の技術を身につける			
担当講師	大西 恵梨 看護師臨床経験：8年以上 教育経験：10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 様々な場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条をもつひとに尊重した行動がとれる					
	6 看護実践を振り返り新しい知見を得て、人々の健康と豊かな生活に寄与することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	備考	
	1	アセスメント	情報収集・整理、情報の分析、関連図作成（問題の関連性を考える）3側面を踏まえた全体像の把握	講義 グループ ワーク	※毎回課題あり	
	2					
	3					
	4					
	5	看護問題の明確化 (看護診断)	看護問題の見極め 看護問題の種類・表記 優先順位	グループ ワーク		
	6					
	7	看護計画	期待される成果の立案 看護介入（O-P、T-P、E-P）の立案 計画 発表	グループ ワーク		
	8					
	9	実施①	立案した計画の看護介入の実施、記録	演習 グループ ワーク		
	10	実施②	立案した計画の看護介入の実施、記録			
	11	評価	期待される成果の達成度の評価 達成度に影響を与えた要因の特定 看護計画追加、修正	講義 グループ ワーク		
	12	実施③	立案した計画の看護介入の実施、記録 ※シミュレーション演習	演習 グループワーク		12, 13は2コマ連続の演習。臨床指導者さんが演習に入ってください
	13					
	14	シミュレーション演習の振り返り	各グループの計画・実施内容、学びの共有	講義 グループ ワーク		
	15	まとめ	疑問点、不明点に対する解説 実習に向けて	グループ ワーク		15回目は45分授業
16	終講試験		試験（45分）			
評価方法	終講（筆記）試験（5割）		課題提出物、授業・演習への参加態度（5割）			
テキスト	看護過程の解体新書 学研 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院 その他 医学書院のテキスト全般					

教育内容	専門分野 基礎看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	看護研究	単位 1単位	看護研究に必要な基礎的知識を身につけ、研究に取り組むことができる			
担当講師	柚木佐知子先生 臨床経験：年以上 教育経験：年以上	時間数 30時間				
教育目標	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1 2 3	ケーススタディとは ケーススタディは何の役に立つのか 計画と実践 看護実践からケーススタディへ まとめ方と発表について	ケーススタディとは 研究とは 研究としての意義 実践としての意義 テーマ設定 計画書の作り方 ケーススタディの実施 ケーススタディの実際 ケーススタディを行うにあたっての原則 レポートの構造 書く時の基本姿勢 レポート(研究報告書)の書き方 文献の活用 (口頭発表)	講義	柚木佐知子	
	4 5 6 13 14.15	【看護学科教員担当】 ケーススタディオリエンテーション ケーススタディ作成 ケーススタディ発表	回復期看護学実習(10月)で受け持った対象の ケーススタディを講義をもとに行う ・ケーススタディをレポートにまとめる ケーススタディの構成 ■表題 テーマ ■はじめに ■目的 ■方法 ■倫理的配慮 ■患者情報 ■看護の実際と経過・評価 結果 ■考察 ■結論/おわりに ■参考文献・引用文献 ■謝辞 担当教員と報連相しながらケーススタディを進める レポートをもとに3枚のパワーポイントを作成して 発表する	演習 発表	小林 理絵	ケーススタディは、 「看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方」を参考にすすめる スタディコンパスの 「レポートの書き方」を 参考に作成する
評価方法	レポート20点、ケーススタディ80点					
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 実践に生かす看護理論19					

教育内容	専門分野 地域・在宅看護論	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	地域・在宅看護概論	単位 1単位	在宅療養者と家族の特徴と人々の暮らしを支援するための法律や制度、在宅療養する対象の特徴について学ぶ			
担当講師	西山 玲子 臨床経験:10年以上 教育建研:10年以上	時間数 15時間				
教育目標	1 人々との良好な人間関係を築き、信頼関係と協働的な関係を形成することで自己決定を支援することができる					
	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
	学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師
1		暮らしの基盤としての地域	地域のけるヘルスリテラシー・ヘルスプロモーション	講義	西山 玲子	事前課題:地域・在宅看護の基盤1章2章を予習する。 事後課題:地域包括ケアシステム調査(わが町ケアマップ作成、わが町地域包括ケアシステムの作成など)
2			地域を取り巻く医療について 医療介護総合確保推進法・医療計画 地域医療ビジョン・地域連携クリニカルパス 地域包括ケアシステム・地域共生社会 暮らしの基盤としての地域における看護の役割			
4		地域・在宅看護を取り巻く法令制度	法令制度に関わる背景 介護保険制度・医療保険制度 介護サービス利用の手続き	講義		事前課題:地域・在宅看護の基盤6章介護保険制度について予習する 事後:確認テスト
5		地域・在宅における時期別看護	地域・在宅の7つの時期 健康時・外来・入院・在宅療養移行期・在宅療養期 在宅療養終了期	講義		事前課題:地域・在宅看護の実践3章を予習する
6		在宅療養者	訪問看護の対象者の特徴 医療ニーズのある対象、小児の対象 認知症の対象、精神疾患の対象 在宅における家族看護 家族の発達課題、家族機能、家族アセスメント 介護力アセスメント、ジェノグラム、エコマップ	動画 GW 講義		事前課題:地域・在宅看護の基盤3章、地域・在宅看護の実践p35-39、2章C1-3を予習する
3		地域・在宅看護実践の場と連携	地域における暮らしを支える看護の場 地域住民の暮らしを支える職種 多職種連携と多職種協働	講義		事前課題:地域・在宅看護の基盤5章、地域・在宅看護の実践2章A2-1・2を予習する
7		訪問看護制度	訪問看護制度 訪問看護利用者の動向、訪問看護の利用対象、 訪問看護の利用方法、訪問看護の費用 訪問看護ステーションにおける規定	講義		事前課題:地域・在宅看護の基盤、訪問看護制度について予習する 事後:確認テスト
8		終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(8割)、レポート(2割)					
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論[1]	地域・在宅看護の基盤	医学書院			
	系統看護学講座 地域・在宅看護論[2]	地域・在宅看護の実践	医学書院			
	国民衛生の動向	厚生労働統計協会				

教育内容	専門分野 地域・在宅看護論	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	訪問看護技術	単位 1単位	在宅療養を可能にする訪問看護技術を学ぶ			
担当講師	小西 純子 臨床経験:5年以上 教育経験:3年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場面に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	6 看護実践を振り返り新しい知見を得て、人々の健康と豊かな生活に寄与することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	活動を可能にする在宅療養ケア①	在宅療養における活動と休息 廃用予防のためのポジショニングとは	講義	小西 純子	【事前課題】 「地域・在宅看護の実践」第2章 活動・休息に関する看護技術を読む 【事後課題】ワークシート
	2	活動を可能にする在宅療養ケア②	布団、ベッドでの平行移動、座位、リフト移乗 関節拘縮を防ぐポジショニング	演習	小西 純子	【事前課題】 演習内容の事前学習 【事後課題】 演習内容の事後学習
	3	在宅での清潔ケアの看護技術①	在宅療養における清潔ケアとは	講義	小西 純子	【事前課題】 「地域・在宅看護の実践」第2章 清潔・衣生活に関する看護技術を読む 【事後課題】ワークシート
	4	在宅での清潔ケアの看護技術②	簡易洗髪器、バスタオルとビニールで作るケリーパッドを使用した洗髪、足浴 温タオルを使用した清拭	演習	小西 純子	【事前課題】 演習内容の事前学習 【事後課題】 演習内容の事後学習
	5	栄養を確保する看護技術①	在宅療養における栄養を確保する看護とは	講義	田中 久美子	【事前課題】 「地域・在宅看護の実践」第2章 食生活・嚥下に関する看護技術を読む
	6	栄養を確保する看護技術②	在宅中心静脈栄養法 (HPN) 管理とポート挿入 在宅での胃瘻の管理と接続方法	演習	小島 綾子	【事前課題】 演習内容の事前学習 【事後課題】 演習内容の事後学習
	7	排泄を妨げない看護技術①	在宅療養における排泄を妨げない看護とは	講義	田窪 絹江	【事前課題】 「地域・在宅看護の実践」第2章 排泄に関する看護技術を読む
	8	排泄を妨げない看護技術②	在宅での浣腸、排便、陰部洗浄方法	演習	田窪 絹江	【事前課題】 演習内容の事前学習 【事後課題】 演習内容の事後学習
	9	排泄を妨げない看護技術③	在宅でのストーマ管理とフランジ交換	演習	田窪 絹江	【事前課題】 演習内容の事前学習 【事後課題】 演習内容の事後学習
	10	呼吸を守る看護技術①	在宅療養における呼吸を守る看護とは 在宅療養における呼吸管理方法	講義	田窪 絹江	【事前課題】 「地域・在宅看護の実践」第2章 呼吸・循環に関する看護技術を読む
	11	呼吸を守る看護技術②	非侵襲的陽圧換気療法 (NPPV)、 NPPVマスクの特徴・種類とフィッティング、 HOT機器の特徴と取り扱い	演習	小西 純子	【事前課題】 演習内容の事前学習 【事後課題】 演習内容の事後学習
	12	呼吸を守る看護技術③	在宅での呼吸リハビリテーション 排痰方法 (スクイーミング、ハッフイング)	講義	山口 勝生	【事前課題】 「地域・在宅看護の実践」第2章 呼吸・循環に関する看護技術を読む
	13	呼吸を守る看護技術④	排痰技術 (スクイーミング、ハッフイング)	演習 (45分)	山口 勝生	【事前課題】 演習内容の事前学習 【事後課題】 演習内容の事後学習
	14	在宅療養を可能にする創傷処置①	在宅療養における創傷処置 在宅での褥瘡ケア、洗浄とドレッシング材の選択	講義	小西 純子	【事前課題】 「地域・在宅看護の実践」第2章 創傷管理に関する看護技術を読む 【事後課題】ワークシート
	15	在宅療養を可能にする創傷処置②	在宅での褥瘡ケア技術	演習	小西 純子	【事前課題】 演習内容の事前学習 【事後課題】 演習内容の事後学習
	16	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験 (7割) レポート (3割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 医学書院					

教育内容	専門分野 地域・在宅看護論	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	訪問看護と看取り	単位 1単位	老いや病いを抱えながら在宅で暮らす人を支える看護を学ぶ			
担当講師	藤原 真由美 臨床経験:10年以上	時間数 15時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	看取りとは	終末期ケア、ターミナルケア、エンドオブライフケア、 看取りケアの考え方 在宅ホスピス、ホームホスピス、デイホスピス、 看護小規模多機能居宅介護、介護医療院	講義	藤原 真由美	事前課題:地域・在宅看護の 実践3章GH,4章Iを予習する 関連科目:成人援助論II (エンドオブライフケアにおける看護)
	2	看取りと文化	安楽死、尊厳死 人間観、身体観、死生観、パターナリズム、 家族中心主義、儀礼的意味	講義		
	3	看取りにおける権利と 意思決定支援	インフォームドコンセント、アドバンスケアプランニング 事前指示書、DNAR、AYA世代、子どもの看取り	講義		
	4	在宅の看取りにおける チームアプローチ	在宅ケアチーム、在宅移行支援、看護連携、 訪問診療、多職種連携とサービス、	講義		
	5	看取りの時期にある人の 特徴とケア	トータルペイン(全人的苦痛)とアセスメント、 死の受容過程とアセスメント、疼痛緩和ケア、 WHO除痛ラダー、がん疼痛の薬物療法に 関するガイドライン 倦怠感の症状アセスメント、臨死期の特徴的な症状 在宅サービスと療養環境整備、医療器材の整備 本人・家族の医療機器管理と医療処置	講義		
	6	在宅における看取りの看護技術	オピオイド鎮痛薬、麻薬の取り扱い、PCAポンプ 経皮的オピオイド、NSAIDs座薬の取り扱い、 エンゼルケア	講義 演習		
	7	在宅の看取りケア	看取りをする家族、家族のセルフケア能力、 介護力、家族関係、死の準備教育、グリーフケア デスカンファレンス	講義		
	8	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(7割) グループワーク等平常点(3割)					
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論[1]	地域・在宅看護の基盤	医学書院			
	系統看護学講座 地域・在宅看護論[2]	地域・在宅看護の実践	医学書院			
	系統看護学講座 別巻	緩和ケア	医学書院			

教育内容	専門分野 地域・在宅看護論	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	訪問看護の看護過程	単位 1単位	療養者と家族が地域で生活を継続していくための課題やニーズに応える看護過程を学ぶ			
担当講師	小西 純子 臨床経験:5年以上 教育経験:2年以上	時間数 15時間				
教育目標	1 人々との良好な人間関係を築き、信頼関係と協働的な関係を形成することで自己決定を支援することができる					
	2 さまざまな場にも暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	地域・在宅看護過程とは	地域・在宅看護過程の構成要素 情報の整理・総合的機能関連図 訪問看護計画	講義	小西 純子	【事前課題】 イーナーストレーナーの「地域・在宅看護過程」第一章を読み課題に答える 【事後課題】 地域・在宅看護過程の展開の意義提出
	2	【認知症療養者】 生活支援・社会資源の活用と訪問計画、援助の実践	総合的機能関連図の作成	講義 グループワーク	小西 純子	【事前課題】 認知症療養者の事例学習 【事後課題】 総合的機能関連図作成 看護課題抽出
	3	【パーキンソン病の療養者】 生活支援・社会資源の活用と訪問計画、援助の実践	情報の整理	講義 グループワーク	小西 純子	【事前課題】 在宅看護過程の展開復習 【事後課題】 情報整理シート作成
	4		総合的機能関連図の作成	講義 グループワーク	小西 純子	【事前課題】 在宅看護過程の展開復習 【事後課題】 総合的機能関連図作成
	5		看護課題の検討、訪問看護計画立案	講義 グループワーク	小西 純子	【事前課題】 在宅看護過程の展開復習 【事後課題】 看護計画・実施記録・ 発表企画書作成
	6		【発表】 訪問看護計画、援助の実践	演習 ロールプレイ	小西 純子	【事後課題】 看護計画・実施記録 →計画の評価・修正
	7		【発表】 計画の評価・修正	講義 グループワーク	小西 純子	【事後課題】 情報整理シート作成 総合的機能関連図作成 看護計画・実施記録 360度評価 相互評価
8	終講試験	筆記試験				
評価方法	筆記試験(5割) レポート(5割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	強みと弱みからみた 地域・在宅看護過程 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 医学書院					

教育内容	専門分野 地域・在宅看護論	時期 1年次	科目のねらい			
授業科目	地域と看護	単位 1単位	看護の対象を生活者としてとらえるためには人の暮らしの場であり、生活背景である地域を知る必要がある。そのために地域での様々な取り組みに参加し、人々の暮らしと地域のつながりを理解する			
担当講師	西山 玲子 臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	人々の暮らし	暮らしを考える	講義 グループワーク	西山 玲子	事前課題: 地域・在宅看護の基盤1章を読む
	2		インタビューをとおし、様々な世代の人の暮らしを知る 様々な世代の人の暮らしを共有する			
	3	人々の暮らしと健康	環境と健康との関連	講義 グループワーク	西山 玲子	
	4		生活と健康との関連 暮らしの中で健康を捉える			
	5	暮らしの基盤としての地域の理解	暮らしと地域	講義	村上 賀美	事前課題: 地域・在宅看護の基盤2章を読む
	6		暮らしと地域を理解するためのシステム理論 地域包括システムと地域共生社会 地域の特性と人々の生活習慣 健康状態との関連を査定する指標			
	7	フィールドワークの準備	自分自身の居住地域の特性について調べる	演習	西山 玲子	
	8		居住地域の安全、安心、健康に暮らすための コミュニティ活動について情報収集 地域のフィールドワーク企画書作成			
	9	課外活動	活動へ参加	課外活動	西山 玲子	
	10		・地域の人へのインタビュー (住みやすさ、希望など)			
	12	課外活動まとめ	地域活動参加したものをまとめる	演習	西山 玲子	
	13		・暮らしと地域について			
	14	発表	地域活動の発表	発表	西山 玲子	
	15					
評価方法	フィールドワークに関するパフォーマンス評価100点(課題、授業態度、出席など平常点を含む)					
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院					

教育内容	専門分野 地域・在宅看護論	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	ケアマネジメント演習	単位 1単位	療養者と家族が希望する生活を支援するためのケアマネジメントを学ぶ			
担当講師	水野 悠 臨床経験:10年以上	時間数 15時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
	6 看護実践を振り返り新しい知見を得て、人々の健康と豊かな生活に寄与することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	生活支援のための社会資源の活用	フォーマル・インフォーマルサービス、介護給付、予防給付の活用、障害者総合支援法、難病法に基づく公費負担制度、公費負担医療制度、成年後見制度	講義	水野 悠	1. 教科書「地域・在宅看護の基盤」6章、D地域保健に関わり法制度、E高齢者に関する法制度(主に成年後見制度)F障害者・難病に関する法制度(主に障害者福祉サービス体系、難病の位置づけ、難病法に基づく制度(公費負担)、G公費負担医療の項を予習しておく
	2	介護保険による居宅介護支援の活用	居宅介護支援事業所、介護支援専門員の機能と役割、介護福祉士の機能と役割	講義		1. 教科書「地域・在宅看護の基盤」5章、C地域・在宅看護における多職種連携について予習しておく
	3	ケアマネジメント	ケアマネジメントの概念、対象者の自立支援とQOLの向上、自己決定支援 ケアマネジメントの構成要素 ケアマネジメントの機能 ケアマネジメントの過程、アセスメント、ケアプラン サービス担当者会議、モニタリング評価	講義		1. 教科書「地域・在宅看護の基盤」6章、A介護保険・医療保険制度、C訪問看護制度の項を地域・在宅看護概論の授業内容も併せて復習しておく 2. 教科書「地域・在宅看護の基盤」6章、C訪問看護制度⑧ケアマネジメントと社会資源の活用を予習しておく
	4	ケアプランと実践	ケアプランの実践に必要な多職種と多機関 多職種・多機関との連携と協働	講義		
	5	ケアプラン演習	事例を用いてケアプランを立案する	演習		
	6					
	7					
8	終講試験	筆記試験				
評価方法	筆記試験(7割) 演習(3割)					
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 医学書院					

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 1年次	科目のねらい			
授業科目	成人看護学概論	単位 1単位	ライフサイクルにおける成人期の特徴と発達課題を理解する。 様々な個人の生活様式や多様な価値観の中で生活する成人期にある対象の健康問題を理解する。 成人期における健康の保持増進・疾病予防の援助と看護の役割を理解する。 成人保健の動向および看護の役割について理解する。			
担当講師	小林 理絵 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場面に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	1	成長・発達過程からみた成人の特徴	・対象理解:大人になること、大人であること ・生涯発達とは ・発達課題・発達段階(エリクソン・ハヴィグスタット・レビンソン) ・各発達段階の特徴(青年・壮年・中年・向老期)	講義	小林 理絵	【事前学習】 第1部 第1章 成人と生活 【事後課題】 ・青年期・壮年期・向老期について身体的・心理的・社会的特徴をまとめる
	2	保健統計からみた成人の健康の動向	・我が国の総人口(年齢別、生産年齢・労働人口) ・成人の健康の状況(平均・健康寿命、健康格差、職業性・業務上疾病、作業関連疾患) ・受療状況・生活習慣病・メンタルヘルスと自殺者	講義		【事前学習】 第1部 第2章 生活と健康
	3	成人を対象とした保健・医療・福祉施策	・保健にかかわる対策(健康増進法) ・生活習慣病(特定健診審査と特定保健指導) ・医療にかかわる対策(医療法) ・疾患対策(がん対策基本法) ・労働者の健康対策(労働基準法、労働安全衛生法 トータルヘルスプロモーション、メンタルヘルス) ・福祉に関する対策(障害者基本法、障害者総合支援法)	講義 GW		【事前学習】 第1部 第2章 生活と健康【事後課題】 ・現在の成人の健康問題について調べる
	4 ・ 5	成人への看護アプローチの基本	大人の健康行動の考え方 ・大人の学習(アンドラゴジーモデル) ・行動変容を促すアプローチ(自己効力感バンドューラ>、エンパワメント、強み、意思決定支援) ・自己効力感に着目した症状マネジメント	講義 GW		【事前学習】 第2部成人へのアプローチの基本 【事後課題】 ・エンパワメントアプローチについて ・効果的な症状マネジメントを導く看護アプローチについて
	6 ・ 7	ヘルスプロモーションと看護	ヘルスプロモーション ・予防のレベル ・集団の健康を増進するための方法(ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ) ・ヘルスプロモーションを促進する援助 ・健康日本21 ・労働促進のための施策(労働基準法、労働安全基準法)	講義 GW		【事前学習】 第3部 第4章 ヘルスプロモーションと看護 【事後課題】 ・ヘルスプロモーション ・労務災害について ・労務災害の予防について
	8	成人の健康をおびやかす要因	健康バランスの構成要素と影響を及ぼす要因 ・ストレス 生活行動もたらす健康問題と予防 ・就業、労働形態・飲酒、喫煙・運動不足、肥満	講義 GW		【事前学習】 第3部 第5章健康をおびやかす要因と看護 【事後課題】 ・経過別看護について調べる
	9 ・ 10	経過別看護とは 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護	・経過別看護とは ・急性期看護とは ・急性期にある人の特徴 ・急性期にある人の看護(危機理論:アギュララ、フィンクの危機モデル)	講義 GW		【事前学習】 第3部 第6章健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 【事後課題】 ・アギュララ、フィンクの危機モデルで考えよう
	11	慢性病とともに生きる人を支える看護	・慢性病の特徴 ・慢性病をもつ人の特徴 ・慢性病をもつ人の特徴(病みの軌跡) ・慢性病とともに生きる人を支える(セルフケア、セルフマネジメント<セルフモニタリング・自己効力感、教育的アプローチ、強み、折り合い>) ・行動変容を促すアプローチ(自己効力感バンドューラ>、エンパワメント、強み、意思決定支援) ・ストレスコーピング理論(ラザルス) ・ソーシャルサポートの活用 ・チームアプローチ	講義 GW		【事前学習】 第3部 第7章慢性病とともに生きる人を支える看護 【事後課題】 ・自己効力感について
	12	障害がある人の生活とリハビリテーション 移行支援と先端医療	・障害とは(WHOの障害分類、国際生活機能分類<ICF>) ・障害の認識過程(フィンク、アギュララの危機モデル) ・障害がある人とその生活を支援する看護 療養の場の移行支援が必要とされる背景 療養の場の移行を支える看護アプローチの特徴と実際 先端医療と看護	講義 GW		【事前学習】 第3部 第8章障害がある人の生活とリハビリテーション 【事後課題】 ・YouTube 「有料の現場最前線回復期リハビリテーション編」視聴
	13 14	人生最期のときを支える看護	・人生最期のときにおける医療の現場 ・人生最期のときにおける緩和ケア(ターミナルケア、ホスピスケア、緩和ケア、エンドオブライフケア) ・人間にとっての死(死の判定、死のプロセス) ・全人的苦痛(トータルペイン)・死の瞬間(キューラー・ロス) ・人生最期の時を支える看護、看護師の役割・機能(ケアリング、意思決定支援、アドバンスケアプランニング<ACP>、チームアプローチ)	講義 GW		【事前学習】 第3部 第9章人生最期のときを支える看護 【事後課題】 ・YouTube 「三菱京都病院 緩和ケア病棟」視聴
	15	まとめ(45分)	事例を踏まえて各経過別の状況に合わせた看護を考える			【事後課題】 ・事例を踏まえた経過別看護について
	16	終講試験(45分)				
	評価方法	筆記試験:75点 課題提出、授業出席・態度:25点 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする				
	テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 看護のための人間発達学 第5版 国民衛生の動向 厚生労働統計協会				

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	成人援助論 I	単位 1単位	恒常性維持が困難になった対象を疾患、機能・病態と治療から捉えて特徴を理解しその看護を学ぶ。内部環境調整機能に障害をもつ患者の看護では生活習慣病や慢性期疾患を持ちながら身体障害と共存していく対象への教育的アプローチを学ぶ。腎機能疾患をもつ患者の看護では多臓器疾患との関連や医療の動向、透析治療と導入を行う患者の看護を通して、慢性疾患の増悪からシヤント造設を行い退院に向けて自己管理していく患者の看護を学ぶ			
担当講師	田中好恵 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:5年未満	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	身体障害と共存する患者の看護 慢性期の患者の看護	セルフケア 成人の学習支援、自己効力感 エンパワメント セルフマネジメント ヘルスプロモーション	講義	田中好恵	
	2	内分泌系疾患患者の看護	視床下部一下垂体系疾患患者の看護 甲状腺、副甲状腺疾患患者の看護 内分泌器官の構造と機能、病態・検査・処置 症状に対する看護	講義	田中好恵	
	3	糖尿病患者の看護	膵臓の構造と機能、検査・処置	講義	田中 友香	
	4		I型糖尿病・II型糖尿病 症状に対する看護			
	5	事例検討	糖尿病患者の看護(事例展開)	講義 グループワーク	田中好恵	事前・事後学習 ・アセスメント ・関連図 ・看護問題・看護計画の 立案
	6		・機能と病態、検査・処置と看護			
	7		・機能別アセスメント (健康管理・健康知覚、栄養・代謝、排泄) 看護問題の抽出、看護計画			
	8	事例検討発表	糖尿病患者の患者指導	発表	田中好恵	患者教育内容の発表を グループごとで行う
	9	事例検討	事例検討に関するまとめ	講義(45分)	田中好恵	
	10	腎機能疾患を持つ患者の看護	腎臓の構造と機能、検査・処置、症状に対する看護	講義	佐藤 祐子	
	11	腎不全とは	腎不全とAKI・CKD、糖尿病性腎症 医療の動向	講義	佐藤 祐子	
	12	腎代替療法を受ける患者の看護	腎移植を受ける患者の看護	講義	佐藤 祐子	
	13		血液透析を受ける患者の看護 保存期～透析導入前 維持期 透析中止の判断			
	14	退院指導	シヤント管理、食事・飲水指導、日常生活への看護	講義	佐藤 祐子	
	15	腹膜透析を受ける患者の看護	腹膜透析導入期の看護 腹膜透析維持期の看護	講義	高見こころ	
	16	終講試験	筆記試験	(45分)	田中好恵	
評価方法	筆記試験(8割)、事前・事後学習内容・発表の取り組み姿勢(2割)					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1]	成人看護学総論	医学書院			
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6]	内分泌・代謝	医学書院			
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8]	腎・泌尿器	医学書院			

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	成人援助論Ⅱ	単位 1単位	消化機能障害、代謝機能障害をもつ患者の病態と治療、機能障害から起こる症状に対する看護を学ぶ。消化機能障害をもつ患者の看護では、急性期から回復期へ向かう患者の障害受容、ボディイメージの変化、退院後の生活指導を学ぶ。代謝機能障害をもつ患者の看護では、エンドオブライフ期(終末期)にある対象の苦痛・苦悩と症状の緩和に向けた援助について学ぶ。			
担当講師	山田 緑 看護師経験:10年以上 教員経験:5年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
学習内容	項目	内容	教授法	担当講師	備考	
	1	消化器疾患をもつ患者の看護	食道疾患患者の看護(症状・検査・治療・看護) ・胃食道逆流症 ・食道がん	講義	塚本 友恵	
	3		胃・十二指腸疾患患者の看護(症状・検査・治療・看護) ・胃十二指腸潰瘍 ・胃がん 腸・腹膜疾患患者の看護(症状・検査・治療・看護) ・潰瘍性大腸炎 ・クローン病 ・腸閉塞、イレウス ・大腸がん	講義	塚本 友恵	
	4	ストーマ造設患者の看護	心理的支援 (ボディイメージの変容と受容に向けての関わり) 術後合併症、皮膚障害 ストーマ装具の選択 セルフケア指導 退院後の支援、ストーマ外来での実際	講義	根岸 睦	
	5		ストーマサイトマーキング 装具交換	演習	根岸 睦	ストーマサイトマーキング、装具交換の方法を事前学習しておく
	6	消化器疾患をもつ患者の看護	肝臓・胆嚢疾患患者の看護(症状・検査・治療・看護) ・肝臓がん(肝炎、肝硬変) ・胆嚢炎(胆石発作)	講義	塚本 友恵	
	7		膵臓疾患患者の看護(症状・検査・治療・看護) ・膵炎 ・膵臓がん	講義	塚本 友恵	
	8	エンドオブライフケア期にある患者の看護	全人的苦痛の理解、末期患者の心理プロセス 霊的(スピリチュアル)面 価値観・死生観・人生観 トータルペイン、がん性疼痛のメカニズム 疼痛緩和・症状と苦痛の緩和(オピオイド) 緩和ケア ケアプランと意思決定支援	講義	塚 久美子	
	10	事例検討	肝臓がん末期の患者の看護 ・四側面からの対象理解、アセスメントの視点 ・援助計画立案	講義 グループワーク	山田 緑	事例検討に関しては毎回事前課題を提示する
	14	事例検討発表	患者に合わせた安寧・安楽を考えた看護援助 症状と苦痛の緩和の看護	発表 グループワーク	山田 緑	
	15	まとめ(45分)	エンドオブライフ期(終末期)の看護とは	講義	山田 緑	
	16	終講試験(45分)	筆記試験		山田 緑	
	評価方法	筆記試験 課題提出				
	テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院				

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	成人援助論Ⅲ	単位 1単位	運動機能障害や女性生殖器疾患をもつ対象を通して機能障害をもちながら社会復帰に向かう対象への支援を多職種連携と看護の機能から学ぶ。			
担当講師	溝口 綾 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間	血液疾患患者の看護では、疾病と付き合いながら生活してきた対象が、疾病の治療・回復期に至る看護を通してその人らしく生活するための看護について学ぶ			
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	運動器疾患をもつ患者の看護	大腿骨頸部骨折・大腿転子部骨折	講義	岡島 尚子	
	2		腰椎椎間板ヘルニア 腰部脊柱管狭窄症 脊髄損傷 関節リウマチ 骨腫瘍	講義	岡島 尚子	
	3	援助に必要な知識と技術	身体機能の評価 日常生活動作(ADL)の評価 基本肢位・良肢位と廃用症候群の予防 セルフケアを支える道具の活用 運動疾患と保険・医療・福祉制度	講義	岡島 尚子	
	4	リハビリテーション看護	リハビリテーションの実際と看護 ・障害の受容 ・セルフマネジメント ・家族支援 社会参加 制度の活用 ・多職種チームの連携 ・住居のアセスメント	講義	岡島 尚子	
	5	女性生殖器疾患(乳癌)をもつ患者の看護	医療の動向 病態と症状マネジメント	講義	溝口 綾	
	5		疾患を持つ患者の経過と看護 検査を受ける患者の看護 治療を受ける患者の看護 機能障害を持ちながら生活する人の看護 乳がん患者への支援 (意思決定支援 多職種連携 リンパ浮腫 アピアランスケア 社会復帰 AYA世代 妊孕性温存 ボディイメージの変化と受容)	グループワーク (45分)		
	9					
	10	女性生殖器疾患(子宮癌)をもつ患者の看護	子宮癌の患者の看護 医療の動向 病態と治療	講義	太田 芙貴子	
	11		疾患を持つ患者の経過と看護 病態と症状マネジメント リハビリテーションの実際と看護 ボディイメージの変化と受容	グループワーク		
	12	血液疾患の患者の看護	医療の動向 病態と治療	講義	田中 好恵	
	5	白血病患者の看護	疾患を持つ患者の経過と看護 症状とマネジメント	グループワーク		
	15		化学療法と看護、輸血と看護			
	16	終講試験	筆記試験	(45分)	溝口 綾	
	評価方法	筆記試験、レポート 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする				
	テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4] 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[9] 女性生殖器 医学書院				

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい				
授業科目	成人援助論Ⅳ	単位 1単位	呼吸器疾患の患者の事例を通して、周術期にある患者の身体侵襲とその看護を学ぶ。 手術前・中・後の患者の変化から予測の視点と術後合併症の予防とリスク管理について、対象の疾患・病態生理から対象の状況と変化を捉え個性のある看護を考える。 また、形態機能の変化に合わせ、退院後の生活を見据えた生活指導についても学習する。				
担当講師	山田 緑 看護師臨床経験:10年以上 看護教員経験:5年以上	時間数 30時間					
教育目標	2 さまざまな場面に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる						
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考	
	1	周術期看護の基礎知識	周術期にある患者と家族の特徴 手術侵襲と生体反応 ・手術侵襲に対する生体反応 ・ムーアの分類 ・サイトカイン ・創傷治癒	講義	栗田 晃正		
	2	手術前の患者の看護	外来における手術前の患者の看護 ・手術についての説明と同意(インフォームドコンセント) ・意思決定支援 ・術前検査 病棟における手術前の患者の看護 ・手術前オリエンテーション ・クリニカルパス ・術前アセスメント ・心理面への援助(不安、ボディイメージの変容など)	講義	栗田 晃正		
	3	術中の患者の看護	手術室の環境 手術室での安全管理	講義	川崎 広子		
	4		麻酔法 ・麻酔の目的 ・全身麻酔 ・挿管、抜管 ・局所麻酔 ・麻酔導入時の看護 手術中の看護 ・器械出し看護師、外まわり看護師の役割 ・術中管理とアセスメント ・手術体位とその影響 手術終了時の看護				
	5	術後の患者の看護	手術後の回復を促進する看護 ・早期離床 ・疼痛管理、硬膜外麻酔 ・創傷管理 ・ドレーン管理 術後合併症 ・発生機序 ・予防と発生時の対応 ・術後のリスクアセスメント 退院に向けた看護	講義	栗田 晃正		
	6		7				呼吸器疾患患者の看護
	8		気管内吸引	演習	原田 雅美	気管内吸引の方法・手順を根拠をふまえて学習し、演習に臨むこと	
	9	事例患者に対する周術期看護	術前の看護 ・術前アセスメント ・術前オリエンテーション	講義 グループワーク 演習	山田 緑	毎回事前課題を提示する	
	14		術直後の看護 ・術直後の観察、アセスメント(術中の経過もふまえて) ・ドレーン挿入部の処置(消毒、ガーゼ交換) 術後の看護 ・初回離床 ・離床後のケア(更衣、バルーンカテーテル抜去) ・術後合併症予防のための援助 ・退院指導				
	15	まとめ(45分)	周術期看護に関するまとめ	講義	山田 緑		
	16	終講試験(45分)	筆記試験				
	評価方法	筆記試験 課題提出 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
	テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 ナーシンググラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 看護技術プラクティス 学研					

教育内容	専門分野 成人看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	成人援助論V	単位 1単位	現代の救急医療の現状と救急医療システム、初期対応とアセスメントについて学ぶ 循環器疾患患者を通して救急搬送時のアルゴリズム(検査、治療)、症状に対する看護、包括 的リハビリテーションと退院に向けた支援・退院指導を一連の看護展開の中で学ぶ			
担当講師	田中 好恵 看護師臨床経験:10年以上 教員経験:5年未満	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	急性期の看護	急性期看護の対象と心身の特徴 治療の特徴と患者・家族への影響	講義	山崎 祐嗣	
	2	救急看護	救急看護の特殊性、救急医療体制と救急システム 緊急性と重症度のアセスメント 全身状態の外観の観察とアセスメント 重要病態に対する救急処置と看護 (中毒・熱傷・ショック)	講義 グループワーク	山崎 祐嗣	
	3	救急看護	止血法、BLSの基礎知識	講義・演習	山崎 祐嗣	BLS演習は 特別教育活動
	4	重症集中ケアの看護	クリティカルケアの特殊性と看護	講義	山崎 祐嗣	
	5	循環器疾患患者の看護	医療の動向 虚血性心疾患の病態、検査・治療・看護	講義	田中 好恵	
	6	検査を受ける患者の看護	心疾患に関わる検査と看護 心電図、心エコー、脈波検査 心臓カテーテル検査を受ける患者の看護	講義	田中 好恵	
	7	検査を受ける患者の看護	12誘導心電図、モニター装着している患者の看護	演習	石川 清美	
	8	治療を受ける患者の看護	内科的治療	講義	田中 好恵 田中 好恵 田中 好恵	
	9		薬物療法			
	10		PCIを受ける患者の看護 外科的治療 冠動脈バイパス術を受ける患者の看護 心臓リハビリテーション			
	11	循環器疾患患者の看護	不整脈の治療と看護 恒久的ペースメーカ植え込み術を受ける患者の看護	講義	田中 好恵	
	12	循環器疾患患者の看護	心不全の病態(左心不全・右心不全の違い)、 検査・治療・看護 自己管理への教育(心不全の病態や増悪因子) セルフモニタリング(血圧・体重)の重要性 定期受診の必要性	講義	石川 清美	
	13	循環器疾患患者の看護	心不全教室とは	講義 グループワーク	石川 清美 石川 清美	
	14		心不全患者への教育 再発予防 生活指導(食事・水分制限、禁煙など) 仕事や家事の負担 セルフモニタリング・受診の目安			
	15	まとめ	講義に関するまとめ	45分	田中 好恵	
16	終講試験	終講試験	45分	田中 好恵		
評価方法	筆記試験(100点) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3] 循環器 医学書院					

教育内容	専門分野 老年看護学	時期 1年次	科目のねらい			
授業科目	老年看護学概論	単位 1単位	老年看護の対象を理解し、老年看護の動向と機能と役割について理解する 近年の社会構造の変化を理解し、老年期における人々の保健・医療・福祉の動向と対策について理解する			
担当講師	佐野 和美 看護師臨床経験:9年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場面に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	加齢に伴う変化①	老年期とは 高齢者とは 加齢と老化 老化の誘因・促進因子、予防 加齢に伴う身体的・心理社会的側面、知的機能の変化 スピリチュアリティ 老年期の発達と成熟 発達課題 サクセスフルエイジング・健康寿命	講義	佐野 和美	(事前課題については 授業内で説明)
	2	加齢に伴う変化②	老年期の対象が健やかに生きるとは	GW		事前課題 (高齢者の生きてきた時代を知ろう)
	3	高齢者とのコミュニケーション	コミュニケーションの特徴と援助 視覚障害(老眼・白内障) 聴覚障害(老人性難聴・語音弁別能の低下) 加齢による変化(平衡感覚・味覚・嗅覚含む) 言語障害 認知機能低下・その他 特徴・個性に応じたコミュニケーション方法	講義 GW		事後課題 (高齢者とのコミュニケーションを考える)
	4	高齢者の現況	高齢化率 高齢者のいる世帯 高齢者の健康状態と暮らし 平均寿命・健康寿命 高齢者の死因・死亡場所	講義		事前学習 (R7年度高齢社会白書を読む)
	5	高齢者の暮らしぶり	高齢者観察・インタビューからの気づき	演習		事前課題
	6		高齢者疑似体験	GW		(高齢者の観察・ インタビュー)
	7	高齢者をとりまく保健医療福祉の動向	保健医療福祉制度の変遷 介護保険制度のしくみ(概要) 医療・介護総合確保推進大綱(地域包括ケアシステム) 認知症施策推進大綱 後期高齢者医療制度	講義		
	8					
	9					
	10	高齢者の権利擁護	エイジズム 高齢者虐待 身体拘束	講義		
	11		成年後見制度 日常生活自立支援事業			
	12	高齢者の住まい・居住施設	介護保険施設 サービス付き高齢者向け住宅(高齢者住まい法) 社会福祉施設	講義		事前課題 (住まい・居住施設の 機能・特徴)
	13	高齢者に起こりやすい事故	家庭内の不慮の事故 転倒のアセスメントと看護	講義		
	14	治療・介護を必要とする高齢者と家族の看護 高齢者をとりまく多職種	要介護高齢者の動向 近年の介護状況 家族への援助 多職種とその役割	講義		事前課題 (多職種の役割)
	15	老年看護の役割	まとめ 高齢者総合機能評価(CGA)	講義 (45分)		
16	終講試験					
評価方法	筆記試験8割 / 授業態度・課題提出2割					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患編 医学書院 国民衛生の動向					

教育内容	専門分野 老年看護学	時期 1年次	科目のねらい			
授業科目	老年援助論 I	単位 1単位	高齢者の加齢変化と、その影響による症候・疾患を理解し、必要な看護について学ぶ。			
担当講師	中本 早央里 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:5年以上	時間数 15時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	運動器系の加齢変化と特徴的な疾患・看護	加齢による運動器系の変化 アセスメント 高齢者の基本動作とそれを支える環境 日常生活動作の評価	講義	沼田 かおり	
	2	消化器系の加齢変化と特徴的な疾患・看護	加齢による消化器系の変化 アセスメント 食事・食生活の特徴と援助 低栄養 摂食・嚥下障害 身体機能・認知機能に応じた食事と食生活の支援	講義	馬嶋 きみ代	
	3		排便のアセスメント 便秘 下痢	講義	馬嶋 きみ代	
	4	腎・泌尿器系の加齢変化と特徴的な疾患・看護	加齢による腎・泌尿器系の変化 アセスメント 水・電解質異常 排尿障害 加齢による免疫機能の変化 尿路感染症	講義	本江 真人	
	5	呼吸・循環系の加齢変化と特徴的な疾患・看護	加齢による呼吸・循環系の変化 アセスメント COPD 心不全	講義	本江 真人	
	6	脳・神経系の特徴的な疾患・看護	脳梗塞 脳出血 麻痺 言語障害 失認 失行 無視 MMT	講義	本江 真人	
	7	老年期における身体機能の変化	老年症候群とは 加齢による検査結果への影響	講義	中本 早央里	
	8	終講試験			中本 早央里	
評価方法	筆記試験					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患編 医学書院					

教育内容	専門分野 老年看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	老年援助論Ⅱ	単位 1単位	高齢者に起こりやすい症候・疾患とその回復過程を、高齢者の特徴をふまえて理解し、対応について学ぶ。 高齢者の健康維持、および入退院支援の必要性、入居施設における支援のあり方について学ぶ。			
担当講師	中本 早央里 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:5年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	高齢者に特有な症候・疾患と看護	発熱 脱水 高齢者の痛みの特徴と腰痛 浮腫	講義	幸松 和子	
	2		骨粗鬆症 転倒時に骨折しやすい部位 脊椎圧迫骨折 変形性関節症	講義	幸松 和子	
	3		嚥下障害のある高齢者の口腔ケア	講義	高西 弘美	
	4		嚥下障害のある高齢者の口腔ケア	演習	高西 弘美	
	5		感染症(肺炎 疥癬 ノロウイルス・嘔吐)	講義	中本 早央里	
	6		認知機能が低下した高齢者の看護 うつ うつ・認知症・せん妄との鑑別 認知症の種類・症状、予防 種類・症状 日常生活への影響 認知症高齢者と家族の支援	講義	沼田 かおり	
	7		認知症看護の基本姿勢(ユマニチュード)	講義	沼田 かおり	
	8		認知症高齢者への対応	演習	沼田 かおり	
	9	薬物治療を受ける高齢者の看護	薬物動態の特徴 ポリファーマシー 服薬行動の特徴 服薬管理支援	講義	中本 早央里	
	10	手術療法を受ける高齢者の看護 高齢者への学習支援	高齢者に起こりやすい周手術期の反応と合併症 せん妄 ジェロロジー	講義	中本 早央里	
	11	高齢者のヘルスプロモーション	健康日本21と介護予防 日常生活支援事業	講義	中本 早央里	
	12	外来を受診する高齢者の看護 入院治療を受ける高齢者の看護	かかりつけ医と紹介受診重点期間 初診時の看護 在宅療養支援 入院から退院を見据えたアセスメント 入退院支援の役割 高齢者の入院に向けた情報収集 入院時の援助	講義・演習	中本 早央里	
	13	退院支援・退院調整	退院を妨げるさまざまな要因 退院支援・退院調整とは 入院時からの退院指導の必要性 退院調整のポイント 生活の場を移行する高齢者の看護	講義・演習	中本 早央里	
	14	保健医療福祉施設における看護	入所高齢者のアセスメント 生活上の課題と援助 健康の揺らぎを最小限にする援助 その人らしい生活に向けた援助	講義・演習	中本 早央里	事前・事後課題 施設に入所する高齢者の アセスメントと計画
	15	エンドオブライフケア	意思決定への支援、アドバンスケアプランニング	講義・演習 (45分)	中本 早央里	
16	終講試験					
評価方法	筆記試験、レポート					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患編		医学書院 医学書院			

教育内容	専門分野 老年看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	老年援助論Ⅲ	単位 1単位	高齢者の健康生活を支える看護について理解する。 リハビリテーションを受ける高齢者の特徴を理解し、もてる力をいかした目標志向型の看護過程展開、および回復に向けた援助について学ぶ。			
担当講師	中本 早央里 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:5年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	高齢者の生活を支える看護	清潔と衣生活の特徴と援助 高齢者の皮膚機能の特徴(老人性皮膚掻痒症を含む) 高齢者の清潔と衣生活の特徴 身体機能・認知機能に応じた清潔と衣生活の支援 スキンケア	講義	中本 早央里	
	2		生活リズムの特徴と援助 睡眠と生活リズムの特徴 身体機能・認知機能に応じた活動と休息の支援 セクシュアリティの理解 高齢者にとってのセクシュアリティの理解と対応	講義	中本 早央里	
	3		活動の縮小による影響 廃用症候群 フレイル 閉じこもり 身体機能・認知機能に応じた安全な活動維持・拡大の支援	講義	中本 早央里	
	4		高齢者の特徴をふまえた看護技術 関節可動域訓練 筋力低下のある高齢者の入浴介助	演習	田村 憲祐	事前課題 ・関節可動域訓練 ・入浴介助
	5	リハビリテーションを受ける高齢者の看護	大腿骨頸部骨折の高齢者の看護 高齢者のリハビリテーションの特徴 リハビリテーションを受ける高齢者の看護	講義	田村 憲祐	
	6					
	7	事例に基づいた看護過程展開	高齢者のヘルスアセスメントの基本 (ヘルスアセスメントの枠組み)	講義 演習	中本 早央里	
	8		健康障害で入院加療が必要な高齢患者と家族への援助			
	9			(45分)		
	10					
	11					
	12					
	13	シミュレーション演習	事例患者への看護計画の実施	演習	中本 早央里	
	14					
	15	まとめ				
16	終講試験	筆記試験		中本 早央里		
評価方法	筆記試験、レポート					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 病態・疾患論 生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図			医学書院 医学書院 医学書院(eナーストレーナー)		

教育内容	専門分野 小児看護学	時期 1年次	科目のねらい			
授業科目	小児看護学概論	単位 1単位	21世紀の小児看護を担う人材として、小児を理解し、複雑化・多様化する小児の健康問題を社会・家族の広い視野から洞察し、こどもの人権尊重を基盤にした小児看護のあり方を学び、小児看護の実践に活かす			
担当講師	寶毛 良子 看護師臨床経験:10年以上 教員経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場面に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	小児看護の特徴と理念	小児看護の目指すところ 小児看護の対象 小児看護の目標と役割 小児と家族の諸統計:人口構造、出生と死亡	講義	寶毛 良子	事前課題 各講義前または講義中に提示
	2	小児看護の変遷	小児看護の歴史、子ども観の変遷、小児医療の変遷	講義		
	3	小児看護における倫理	子どもの権利と歴史的流れ、児童憲章 子どもの権利条約の特徴 子どもの権利を守る倫理 小児看護の課題	講義		
	4	子どもと家族を取り巻く社会	子どもの福祉と保健 妊娠・出産・子育て支援 子どもの安全	講義		
	5	子どものヘルスプロモーションと看護	ヘルスプロモーションとは 子どものための公共政策 予防接種 学校保健、特別支援教育 子どもの医療	講義 講義		
	7	子どもの成長・発達と看護	成長・発達とは 成長・発達の進み方と影響する因子 成長・発達の評価	講義		
	8	乳児期の成長・発達	新生児・乳児の形態・身体生理の発達の特徴 感覚・運動・知的機能の発達、 コミュニケーション・情緒・社会的機能の発達	講義		
	9		新生児・乳児の養育および看護 遊びの支援、育児支援、	講義		
	10	幼児期の成長・発達	形態的・身体的発達の特徴、 感覚・運動・知的機能の発達	講義		
	11		情緒・社会的機能の発達、遊びの発達と社会性 幼児の養育および看護	講義		
	12	学童期の成長・発達と支援	形態的・身体的発達の特徴、 感覚・運動の発達、知的・情緒機能の発達	講義		
	13		社会的機能の発達、不適応行動・症状 学童を取り巻く環境 学童の養育および看護	講義		
	14	思春期・青年期の子ども	形態的・身体的発達の特徴 知的・情緒(心理)的・社会的機能の発達 不適応行動 性教育、安全教育 思春期の看護	講義		
	15	環境の変化と子どものQOL	子どもに関するテーマについてディスカッション	演習(45分)		
	16	終講試験	筆記試験	試験(45分)		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 看護のための人間発達学 第5版 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会					

教育内容	専門分野 小児看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	小児援助論 I	単位 1単位	健康障害をもつ小児と家族が生活・療養するために必要な看護を学ぶ			
担当講師	橋倉 尚美 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	健康障害をもつ子どもと家族の生活と看護、状況に応じた看護	病気・障害が子どもと家族に与える影響 子どもの健康問題と看護 入院中の子どもと家族の看護 外来における子供と家族の看護 在宅療養中の子どもと家族の看護 災害時の子どもと家族の看護	講義	橋倉 尚美	小児臨床看護総論第1.2章
	2	子どもにおける疾病の経過と看護	慢性期にある子どもと家族の看護 急性期にある子どもと家族の看護 周術期にある子どもと家族の看護 終末期にある子どもと家族の看護	講義	橋倉 尚美	小児臨床看護総論第3章
	3	染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護	出生前 出生後の看護 おもな染色体異常疾患をもった小児の看護 低出生体重児の看護	講義	岡原 恵都子	小児臨床看護各論第1章
	4	症状のある小児への看護	子どもの痛み、不機嫌、啼泣、呼吸困難、嘔吐・下痢 発熱、脱水、意識障害	講義	林 真矢	小児臨床看護総論第5章
	5	疾患をもつ子どもの看護1	代謝性疾患・内分泌疾患・免疫疾患 アレルギー疾患と看護	講義	林 真矢	小児看護学各論第3章～第5章
	6	疾患をもつ子どもの看護2	感染症(麻疹・風疹など)・呼吸器疾患と看護	講義	林 真矢	第6章、第7章
	7	疾患をもつ子どもの看護3	循環器疾患	講義	林 真矢	第8章
	8	疾患をもつ子どもの看護4	消化器疾患	講義	林 真矢	第9章
	9	疾患をもつ子どもの看護5	神経疾患・運動器疾患	講義	林 真矢	第13章、第14章
	10	疾患をもつ子どもの看護6	血液・造血器疾患・悪性新生物・皮膚疾患・	講義	小柴 直美	第10章、第11章
	11	疾患をもつ子どもの看護7	腎・泌尿器疾患及び生殖器疾患	講義	小柴 直美	第12章
	12	検査・処置を受ける子どもの看護1	薬物療法(与薬・輸液) 検体採取(採尿・採血・骨髄穿刺・腰椎穿刺)	講義	中島 真希	小児臨床看護総論第6章
	13	検査・処置を受ける子どもの看護2	吸引・吸入、救命処置	講義(45分)	中島 真希	
	14	障害のある子どもと家族の看護	障害のについて、生涯の原因・背景因子との相互作用 障害のあることの動向と看護 障害のある子どもと家族の特徴 障害のある子どもと家族への社会的支援	講義	橋倉 尚美	小児臨床看護総論第1章、第8章 小児臨床看護各論第19章
	15	子どもの虐待と看護 子どもの事故・外傷の看護	虐待への対策の経緯と現状、子どもの虐待とは リスク要因と発生子防・早期発見 子どもの虐待に特徴的にみられる状況とケア 子どもの事故の特徴、おもな事故・外傷と看護	講義	橋倉 尚美	小児臨床看護総論第7章、第8章
	16	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験 10割 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1]	小児看護学概論・小児臨床看護総論	医学書院			
	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2]	小児臨床看護各論	医学書院			

教育内容	専門分野 小児看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	小児援助論Ⅱ	単位 1単位	小児期にある対象とその家族への日常生活援助と、対象にとって安全で安楽な療養生活が送れるような小児看護ケアを学ぶことで、小児看護に必要な知識・技術・態度を身につける			
担当講師	土井 円香 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:5年未満	時間数 15時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	小児に必要な看護技術 検査・処置を受ける子どもの看護	コミュニケーション 成長発達のアセスメント バイタルサイン測定 フィジカルアセスメント 身体測定	講義	中島 真希	小児臨床看護総論 第4章
	2	バイタルサイン測定 身体計測	演習	技術演習	土井 円香	事前・事後課題あり
	3	子どもの安全・安楽	子どもの安全 ディストラクション プレパレーション 点滴管理 抗生剤・点滴の計算 保清 感染予防 抑制 ベッド柵の操作 遊び	講義	中島 真希	小児臨床看護総論 第4章
	4	日常生活援助 点滴管理	演習	技術演習	中島 真希	事前・事後課題あり
	5.6	プレパレーション	プレパレーションの実際 プレパレーションの準備	演習	土井 円香	
	7	プレパレーション	発表		中島 真希	
	8	終講試験	筆記試験		土井 円香	
評価方法	筆記試験(5割) 課題提出およびグループワーク発表(5割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1]	小児看護学概論・小児臨床看護総論	医学書院			
	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2]	小児臨床看護各論	医学書院			

教育内容	専門分野 小児看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	小児援助論Ⅲ	単位 1単位	小児期にある対象とその家族の事例を通して情報の整理、看護計画の立案、実施、追加、修正のプロセスを実施することで、小児看護に必要な知識、看護過程の展開の技術・態度を身につける			
担当講師	長澤 亜由美 看護師臨床経験:10年以上 教員経験:10年以上	時間数 15時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1 5 6	小児の看護過程の展開	事例展開: 川崎病 ネフローゼ症候群・気管支喘息の子どもと家族 看護過程、情報収集の視点 アセスメント 関連図 看護問題の抽出 看護計画	講義 グループワーク	長澤 亜由美	事前課題 ・川崎病、ネフローゼ症候群、気管支喘息の病態、治療について
	7		グループ毎に発表し共通理解をする 計画した援助の実施	発表		
	8	終講試験	筆記試験			
評価方法	筆記試験(5割) 課題提出およびグループワーク発表(5割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院					

教育内容	専門分野 母性看護学	時期 1年次	科目のねらい 次世代の健全な育成と、性と生殖の健康について理解し、女性の生涯にわたる健康の保持増進に向けての課題や看護の役割について学ぶ			
授業科目	母性看護学概論	単位 1単位				
担当講師	増本 綾子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 20時間				
教育目標	3	人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる				
	2	さまざまな場面に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる				
	4	生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる				
	5	人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる				
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	母性の概念と母性の発達 対象理解の基盤となる概念	・母性と母性愛 ・母性、父性、親性の発達 ・母子相互作用、愛着形成 ・家族の発達と機能	講義	増本 綾子	母性看護学概論 P.2～21を予習
	2	人間の性と生殖の意義と人権	・セクシュアリティ ・セックスとジェンダー ・性の多様性	講義		母性看護学概論 P.22～26を予習
	3	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	・人口問題と性的人権 ・女性の自己決定権 ・ヘルスプロモーション	講義		母性看護学概論 P.27～38を予習
	4	母性看護と生命倫理	・産むこと、産まないことと倫理 ・生殖補助医療、出生前診断 ・人工妊娠中絶	講義		母性看護学概論 P.38～53を予習 P.283～288を予習 国民衛生の動向
	5	母子保健の動向と少子化対策	・出生数の減少と子育ての変化 ・女性の就業率 ・婚姻、離婚	講義		母性看護学概論 P.61～81を予習 国民衛生の動向
	6	母性看護に関する法律と母子保健 施策	・母子保健・福祉に関する法律 ・働く妊産婦に関する法律 ・次世代育成に関する法律	講義		母性看護学概論 P.82～97を予習
	7	女性のライフサイクルと看護	・現代女性のライフサイクル ・ホルモンの変化と身体の変化 ・DV、性暴力被害	講義		母性看護学概論 P.100～112、P.127～136、 P.299～306を予習
	8	思春期女性の健康課題と看護	・第二次性徴 ・性意識・性行動の発達 ・月経異常と月経随伴症状 ・予期しない妊娠、性感染症	講義		母性看護学概論 P.108～113、195～209、 P.259～280を予習
	9	成熟期女性の健康課題と看護	・妊娠、出産、子育て世代の葛藤 ・不妊症 ・女性の特有のがん	講義		母性看護学概論 P.216～227を予習
	10	更年期女性の健康課題と看護	・エストロゲンの低下と閉経 ・更年期障害 ・尿失禁、骨粗しょう症	講義45分		母性看護学概論 P.227～248を予習
11	終講試験	筆記試験	試験45分			
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院 看護のための人間発達学 第5版 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 母子手帳					

教育内容	専門分野 母性看護学	時期 2年次	科目のねらい 正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦・新生児の理解と看護実践能力を養うとともに、ウェルネスの視点で母子やその家族に関わり、時期に応じた適切な援助について学ぶ			
授業科目	母性援助論 I	単位 1単位				
担当講師	増本 綾子 助産師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	妊娠期の身体的特性	・妊娠の成立 ・受精、着床 ・妊娠週数 ・妊娠の経過と胎児の発育	講義	増本 綾子	母性看護学各論 P.62～73を予習
	2	妊娠期の心理・社会的変化	・母体の生理的变化 ・妊婦の心理 ・妊婦と家族および社会(勤労妊婦、社会資源)	講義		母性看護学各論 P.77～91を予習
	3	妊婦と胎児のアセスメント	・妊娠とその診断 ・妊婦と胎児の経過のアセスメント ・妊婦の健康生活とアセスメント	講義		母性看護学各論 P.92～132を予習
	4	妊婦と家族の看護	・妊娠中の食生活 ・セルフケア ・マイナートラブルへの対応 ・親になるための準備教育	講義		母性看護学各論 P.136～18を予習
	5	分娩の経過	・分娩の三要素 ・分娩の機序 ・分娩の進行と産婦の身体的変化 ・産婦の心理・社会的変化	講義		母性看護学各論 P.184～211を予習
	6	産婦・胎児、家族のアセスメント	・産婦と胎児の健康状態のアセスメント ・産婦と家族の心理・社会面のアセスメント	講義		母性看護学各論 P.211～246を予習
	7	産婦と家族の看護	・安全、安楽な分娩への看護 ・満足のいくお産体験への看護 ・基本的ニーズに対する看護	講義		母性看護学各論 P.243～258を予習
	8	産褥期の身体的変化	・生殖器、全身の変化 ・乳房の変化	講義		母性看護学各論 P.322～325、334～341 を予習
	9	産褥期の心理・社会的変化	・母親への適応過程 ・マタニティブルー ・家族の心理的变化	講義		母性看護学各論 P.326～334を予習
	10	褥婦のアセスメント	・産褥経過のアセスメント ・褥婦の健康生活のアセスメント	講義		母性看護学各論 P.336～345を予習
	11	褥婦と家族の看護	・復古の促進、身体の回復 ・日常生活とセルフケア ・育児に関わる支援	講義		母性看護学各論 P.345～363を予習
	12	新生児の生理	・新生児の定義 ・新生児の生理的变化	講義		母性看護学各論 P.262～281を予習
	13	新生児のアセスメント	・出生直後の評価 ・新生児の健康状態のアセスメント ・新生児期に実施される検査	講義		母性看護学各論 P.281～304を予習
	14	新生児の看護	・出生直後の看護 ・出生後から退院まで	講義		母性看護学各論 P.305～320を予習
	15	退院後の看護	・育児支援、産後ケア ・社会資源	講義45分		母性看護学各論 P.367～376を予習
16	終講試験	筆記試験	試験45分			
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院					

教育内容	専門分野 母性看護学	時期 2年次	科目のねらい 子どもを産み育てる過程において、特別なニーズをもつ妊産婦、新生児への看護を学ぶ			
授業科目	母性援助論Ⅱ	単位 1単位				
担当講師	羽賀田 千晶 助産師臨床経験:10年以上	時間数 15時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	妊娠期の健康問題を予測する 社会的ハイリスク妊婦の看護含む	<ul style="list-style-type: none"> ハイリスク妊娠とは リスクを予測する意義 身体的ハイリスク、社会的ハイリスクとは 周産期医療の体制、課題 	講義	羽賀田 千晶	母性看護学各論 P.380～390、414～419 を予習
	2	身体的ハイリスク妊婦の看護①	<ul style="list-style-type: none"> 妊娠期の感染症 妊娠疾患 	講義		母性看護学各論 P.390～405、419～422 を予習
	3	身体的ハイリスク妊婦の看護②	<ul style="list-style-type: none"> 多胎妊娠 妊娠持続期間の異常 異所性妊娠 	講義		母性看護学各論 P.406～413、420～422 を予習
	4	分娩期の正常からの逸脱に関する看護	<ul style="list-style-type: none"> 分娩の三要素の異常 産道の異常 娩出力の異常 胎児付属物の異常 胎児機能不全 胎児の異常 胎位の異常、回旋の異常 	講義		母性看護学各論 P.423～435、444～446 を予習
	5	妊娠期・分娩期の異常出血に対する看護	<ul style="list-style-type: none"> 産科異常出血の分類・鑑別 前置胎盤、常位胎盤早期剥離、弛緩出血、産科ショック、羊水塞栓症、DIC 異常出血時の対応 	講義		母性看護学各論 P.436～439、446～457 を予習
	6	ハイリスク褥婦の看護1	<ul style="list-style-type: none"> 帝王切開術を受ける産婦 産褥熱、子宮復古不全、乳腺炎 	講義		母性看護学各論 P.472～479、514～516 を予習
	7	ハイリスク褥婦の看護2	<ul style="list-style-type: none"> 精神障害合併妊娠、産後うつ病 死産 	講義		母性看護学各論 P.516～517、535～550 を予習
	8	終講試験	筆記試験	試験45分		
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院					

教育内容	専門分野 母性看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	母性援助論Ⅲ	単位 1単位	妊産褥婦および新生児に応じた看護が展開できる能力を養う			
担当講師	羽賀田 千晶 助産師臨床経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協働することによって支援することができる					
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	母性看護における看護過程	・マタニティサイクルの看護の特徴 ・ヘルスアセスメント ・ウェルネス看護診断	講義	羽賀田 千晶	参考文献 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版
	2	妊娠期の看護過程の展開1	・妊娠中期の看護展開 妊婦と胎児のアセスメント	講義 グループワーク		事例検討 母性看護学各論 P.92～P.132を予習
	3	妊娠期の看護過程の展開2	・妊娠後期の看護展開 妊婦と胎児のアセスメント 保健指導・健康教育	講義 グループワーク		事例検討 母性看護学各論 P.134～182を予習
	4	妊娠期の看護過程の展開3	・妊娠中期の妊婦への健康教育と評価 ・妊娠後期の妊婦への健康教育と評価	演習		
	5	妊娠期・分娩期に必要な看護技術	・レオポルド触診法(動画 レオポルド触診法) ・子宮底長、腹囲計測(動画 母体計測) ・胎児心音の聴取(動画 ノンストレステスト) ・産痛の緩和法(動画 圧迫法、分娩時のマッサージ法)	演習		ワークシートの事前課題 母性看護学各論 P.102～107、200～203 を予習
	6	分娩期の看護過程の展開1	・分娩第1期の産婦と胎児のアセスメント ・看護計画立案	講義		事例検討 母性看護学各論 P.196～199、247～254 を予習
	7	分娩期の看護過程の展開2	・分娩第2・3期の産婦と胎児のアセスメント ・看護計画立案	講義		事例検討 母性看護学各論 P.247～250、255～258 を予習
	8	産褥期の看護過程の展開1	・産褥早期の看護展開 身体的変化のアセスメント 心理社会的変化のアセスメント 看護計画立案	講義 グループワーク		事例検討 母性看護学各論 P.334～344を予習
	9	産褥期の看護過程の展開2	・退院に向けての看護展開 親役割獲得のアセスメント 退院後の生活環境のアセスメント	講義 グループワーク		事例検討 母性看護学各論 P.334～377を予習
	10	産褥期の看護過程の展開3	・産褥早期の褥婦への健康教育 ・退院前の褥婦への健康教育	演習		
	11	産褥期に必要な看護技術	・フィジカルアセスメント技術	演習		ワークシートの事前課題
	12	新生児の看護過程の展開1	・新生児の看護展開 身体変化のアセスメント 生活環境のアセスメント	講義		母性看護学各論 P.303～320を予習
	13	新生児の看護過程の展開2	・ポジショニング、ラッチオンの技術	演習		ワークシートの事前課題
	14	新生児に必要な看護技術	・沐浴 ・フィジカルアセスメント	演習		ワークシートの事前課題
	15	まとめ	妊産褥婦・新生児の看護展開の視点 まとめ	講義45分		
16	終講試験	筆記試験	試験45分			
評価方法	筆記試験(7割) 事前課題・グループワークの成果物(3割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院					

教育内容	専門分野 精神看護学	時期 1年次	科目のねらい			
授業科目	精神看護学概論	単位 1単位	人間の心の動きをライフサイクルから見た発達、環境との相互作用から見た適応について学習し、こころの健康問題の発生のプロセスと健康の保持増進のための、看護の役割について学ぶ			
担当講師	久保田 泉 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:5年以上	時間数 30時間	精神の健康と精神障害者の歴史と法制度を学ぶ 対象の精神的安寧を保ち、安楽を促進する技術について理解する			
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	社会情勢から精神医療を考える	精神看護学とは何か 日本における自殺問題とメンタルヘルス 日本の精神科医療の現状 精神科医療のニーズ	講義	久保田 泉	
	2	精神保健の考え方	精神障害の体験と精神看護 精神の健康の概念 精神保健の一次予防・二次予防・三次予防	講義	久保田 泉	
	3	心のはたらきと心の仕組み	意識・感情・学習と行動・知能 パーソナリティとは	講義	久保田 泉	
	4	自我の防衛規制	意識と無意識	講義	久保田 泉	
	5	ストレスと心の危機 ライフサイクルとアイデンティティ	自我の防衛機制 心身の健康に及ぼすストレスの影響 ストレスとストレスコーピング 心の危機 ライフサイクルにおける危機 ライフサイクルとアイデンティティ			
	6	こころの健康を守る	BRAVE TALK	講義・演習	三良 貴代美	
	7	関係の中の人間	システムとしての人間関係 全体としての家族 グループ	講義 演習	久保田 泉	
	8	精神障害・医療の変遷から	精神障害の治療の歴史 精神障害と文化・社会学 治療の変遷と法制度の変遷	課題 講義 グループワーク	久保田 泉	
	9	現在の法律と制度	精神障害と法制度 精神保健福祉法 障害者総合支援法 精神科領域に必要な法律と制度	講義	久保田 泉	
	10	社会の動向と精神障害	精神疾患・身体疾患から精神的ケアの必要な人	講義・GW	久保田 泉	
	11	精神障害者の人権について考える	社会の見方・社会の動向 偏見・差別・スティグマ 精神科看護師の倫理綱領	グループワーク 講義(45分) グループワーク		
	12	精神障害者の人権について考える	精神障害者のとらえ方、受け止め方、感じ方	講演 グループワーク	三良 貴代美	
	13	セルフコントロール	ヨガ	講義・演習	井上 麻子	
	14		呼吸法や身体の動かし方			
	15	音楽療法	音楽療法の意義・効果 音楽の効力と音楽療法の実践	講義・演習	清水 真理子	
16	終講試験(45分)	筆記試験		久保田 泉		
評価方法	筆記試験(8割) レポート(2割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院					

教育内容	専門分野 精神看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	精神援助論 I	単位 1単位	主な精神疾患と障害の原因・症状・検査・治療について学ぶ 精神障害者にかかわる職種の役割や機能について学ぶ			
担当講師	杉林 稔 医師臨床経験:10年以上	時間数 20時間				
教育目標	2 ささまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	精神障害の分類と診断 生物学的側面	精神障害の診断と疾病分類 ・DSM ICDの分類 ・生物・心理・社会モデル 生物学的	講義	杉林 稔	
	2	精神科における検査	知能検査 代表的な知能検査 ウェクスラー式知能検査 田中一ビネー知能検査V 新版K式発達検査 人格検査 ミネタ多面人格目録検査 YG性格検査 SCT 絵画欲求不満テスト TAT ロールシャッハテスト 描画法	講義	杉林 稔	
	3	主な症状1	1思考の障害とは 思考の障害:思考形式の障害、思考内容の障害 観念奔逸・支離滅裂・思考途絶・連合弛緩・作為思考 妄想の種類 2感情の障害 気分の障害 感情の興奮性の異常 感情調節障害、感情体験様式の異常、病的感情	講義	杉林 稔	
	4	主な症状2	3意欲の障害 意欲とは 混迷、行動誓詞、被暗示の亢進 抑制消失、社会的引きこもり 4知覚の障害 ・知覚の障害:知覚の質的な障害・量的な障害 知覚の変容、幻覚	講義	杉林 稔	
	5	主な症状3	5意識の障害 意識とは 意識混濁・意識狭窄・意識変容 6記憶の障害 記憶の分類 記憶の障害:記銘の障害、再生の障害 7パーソナリティとその障害 性格、意識の分類・人格の障害	講義	杉林 稔	
	6	精神疾患の成因・症状 特徴・経過・治療1	1統合失調症 2気分障害 双極性障害及び関連障害群、抑うつ障害群 3神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害 恐怖症性不安障害、強迫障害、重度ストレス障害及び適応障害 解離性障害、身体表現性障害	DVD 講義	杉林 稔	
	7	精神疾患の成因・症状 特徴・経過・治療2	4精神作用物質使用による精神及び行動の障害 アルコール症 アルコール以外の精神作用物質使用による精神及び行動の障害 ゲーム・ギャンブル依存症 5発達段階で現れやすい精神障害・心的不調 知的能力障害、てんかん、発達障害、摂食障害 パーソナリティ障害(A群、B群、C群) 6認知症の周辺症状 認知症、せん妄等 7その他 睡眠障害、性別違和、症状精神病、心身症	講義 DVD	杉林 稔	
	8	精神科での治療1	精神療法 個人領邦、集団精神療法、家族療法 薬物療法(目的、薬理作用、作用機序、有害反応)	講義	杉林 稔	
	9	精神科での治療2	向精神薬 抗精神病薬 抗うつ薬 気分安定薬 抗不安薬 睡眠薬 抗酒薬 精神刺激薬 電気けいれん療法 環境療法・社会療法	講義	杉林 稔	
	10	関連する職種	精神保健指定医、精神保健福祉士、臨床心理士 作業療法士、音楽療法士他	講義(45分)	久保田 泉	
11	終講試験	筆記試験	試験(45分)			
評価方法	筆記試験(10割) 杉林講師90点 教員10点 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院 別巻 精神保健福祉 医学書院 看護学テキスト 精神看護学II 地域・臨床で活かすケア 南江堂					

教育内容	専門分野 精神看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	精神援助論Ⅱ	単位 1単位	精神障害者を理解し、治療の人間関係を学び、精神疾患の症状に対する援助を学ぶ 状態に応じて自立を支援出来るような援助方法を学ぶ 精神障害と身体疾患をつなぐリエゾン看護について学ぶ			
担当講師	久米光太郎 看護師臨床経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	ケアの人間関係	ケアの原則と方法	講義	久米光太郎	
	2	プロセスレコードの実際	関係アセスメント 患者—看護師関係における感情体験	ワーク		
	3	回復を支援する 精神看護における技法	リハビリ さまざまな回復プログラム ・SST CBT 当事者研究 マインドフルネス セルフヘルプグループ、カウンセリング プロセスレコード、リラクゼーション、コーチング	講義	久米光太郎	
	4	地域での支援	障害者総合支援法に基づくサービス 地域における生活支援の方法 ・自己決定 システムと社会資源 地域における精神障害者のニーズ	講義	久米光太郎	
	5	地域におけるケアと支援	地域におけるケアの方法と実際 ・ストレングスマodel アウトリーチ 多職種連携 学校及び職場におけるメンタルヘルス	講義	久米光太郎	
	6	入院治療の意味	精神科受診から入院・退院へ向けて 入院形態 治療的環境 入院中の観察、ケア、退院支援	講義	久米光太郎	
	7	身体をケアする	精神科における身体ケア 身体合併症	講義	久米光太郎	
	8	治療に伴う身体へのケア	精神科の治療に伴う身体へのケア 薬物療法 修正型電気けいれん療法	講義	久米光太郎	
	9	安全を守る	リスクマネジメント:行動制限 隔離と身体拘束 緊急事態:自殺 暴力 無断離院 緊急事態のスタッフ支援	講義	久米光太郎	
	10	リエゾン精神看護	リエゾン精神看護と活動の実際 看護師のメンタルヘルスの支援	講義 (45分)	久米光太郎	
	11	症状・状態別看護	せん妄、不安のある患者の看護		久米光太郎	
	12	症状・状態別看護	幻覚・妄想のある患者の看護		久米光太郎	
	13	症状・状態別看護	攻撃的行動・混迷状態・睡眠障害のある患者の看護 多飲症にある患者の看護 引きこもり状態にある患者の看護		久米光太郎	
	14	症状・状態別看護	気分障害の患者の看護 脅迫性障害のある患者の看護		久米光太郎	
	15	症状・状態別看護	発達障害、摂食障害 パーソナリティ障害の患者の看護 クライシスプラントについて		久米光太郎	
16	終講試験	筆記試験	(45分)			
評価方法	筆記試験、課題含めて10割 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院 看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 メジカルフレンド社					

教育内容	専門分野 精神看護学	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	精神援助論Ⅲ	単位 1単位	精神障害を持つ対象の状況に応じた看護を展開する能力を養う			
担当講師	久保田 泉 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:5年以上	時間数 15時間				
教育目標	1 人々との良好な人間関係を築き、信頼関係と協働的な関係を形成することで自己決定を支援することができる					
	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	対象のとらえ方 情報の整理とアセスメント	オレム・アンダーウッドのセルフケア理論	講義	久保田 泉	
	2	情報収集と整理	情報の収集 ・生活歴、発症から入院まで、受け持ちまでの経過 ・カテゴリーにおける情報の整理 ・事例の考え・思いを知る	講義 ワーク	久保田 泉	
	3	情報アセスメント	各カテゴリーの情報整理とアセスメントの実施	講義 ワーク	久保田 泉	
	4	情報アセスメントとセルフケアレベル	情報アセスメントからセルフケアレベルを考える	講義 ワーク	久保田 泉	
	5	援助の実践	自分たちの考えた援助を実践する 対象のセルフケアレベルや考え・思いを尊重した援助	演習	久保田 泉	
	6	必要な看護と社会資源の活用	対象のセルフケアレベル、思いや考えを尊重した 今後に必要なと考える社会資源の活用 連携していく多職種	講義 ワーク	久保田 泉	
	7	当事者の体験	断酒会の方との語り ・飲酒のきっかけ・診断を受けるまでの生活 ・診断前・中・後の家族との関係性や実際 ・診断後の経過や社会との繋がり ・その人にとっての断酒会の意義	演習	久保田 泉	
8	終講試験	筆記試験	(45分)			
評価方法	筆記試験(4割) レポート及び演習(6割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 精神看護学[1] 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 医学書院 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 看護学テキスト 精神看護学Ⅱ 地域・臨床で活かすケア 南江堂					

教育内容	専門分野 看護の統合と実践	時期 3年次	科目のねらい			
授業科目	災害看護・国際看護	単位 1単位	災害が人々の生命や生活に及ぼす影響を理解し、災害サイクルに応じた看護支援活動および看護の役割について学ぶ 国や文化を超えた人々の健康に関する諸問題について学び、看護の国際組織について学ぶ			
担当講師	高西 弘美 看護師臨床経験:10年以上 森田 佳奈子 教育経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる					
	2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる					
	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
	7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	災害看護の基礎知識	災害の定義 災害の種類と健康被害 災害医療の特徴 災害看護と法律 災害時の情報、職種間・組織間連携 災害看護の定義・役割 災害看護の対象 災害の特徴と看護活動 災害看護場面におけるジレンマ	講義	高西 弘美	
	2	災害サイクルに応じた看護	災害サイクルに応じた看護活動 急性期・亜急性期、慢性期・復興期、静穏期 被災者特性に応じた災害看護の展開 災害とこころのケア 避難所・仮設住宅における健康と生活支援	講義	高西 弘美	
	3,4	避難所設営・運営	避難所設営・運営演習	演習	高西 弘美	
	5	避難所における健康と生活支援における看護の役割①	避難所設営・運営演習の振り返りとまとめ 避難所・仮設住宅とは、避難所の設営と運営、避難所での健康への影響、避難所での生活支援 要配慮者の避難所生活の支援について	講義	高西 弘美	
	6	避難所における健康と生活支援における看護の役割②	避難所における看護の役割	講義(45分)	高西 弘美	
	7,8	災害時に必要な看護技術	災害時の救護活動に必要な看護技術 事例を用いる ① トリアージ ② 応急(究明)処置 ③ 搬送・移送技術 ④ その他	演習	高西 弘美	
	9	国際看護の必要性と課題	* 国際看護とは何か? * グロバリゼーションに伴う国際看護の必要性と、現状と課題 感染症の拡大、社会格差と健康格差 在日外国人 外国人看護師 * 日本と海外での出産を通しての異文化紹介	講義	森田 佳奈子	
	10	国際保健政策 I	* プライマリ・ヘルスケアとヘルスプロモーション * ミレニアム開発目標	講義	森田 佳奈子	
	11	国際保健政策 II	* 人間の安全保障 * 途上国における健康課題 背景にある社会、文化、伝統、保健医療	講義	森田 佳奈子	
	12	保健医療分野における国際機関と日本の国際協力の現状	* 国際機関の種類と役割 * WHO(世界保健機関)の目的と活動 * 日本のODA(政府開発援助)の形態と活動状況	講義	森田 佳奈子	
	13	国際協力活動の実際 I	JICAシニア海外ボランティアの活動を通して HIV/エイズに関する状況と文化的背景	講義	森田 佳奈子	
	14	国際協力活動の実際 II	JICA専門家の活動を通して HIV/エイズに関する状況と課題、梅毒について	講義	森田 佳奈子	
	15	ボツワナの国事情とHIV/エイズ問題、シエラレオネの国事情と保健医療問題	* 現地の人たちにとって必要な国際協力とは何かをその国の社会・文化から考える * 異文化コミュニケーションで大切なこと	講義	森田 佳奈子	
	16	筆記試験		筆記試験	高西 弘美	
	評価方法	評価割合: 森田先生50%(終講試験40点、レポート10点) 高西先生50%(終講試験40点、発表10点)				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 医学書院					

教育内容	専門分野 看護の統合と実践	時期 2年次	科目のねらい			
授業科目	医療安全	単位 1単位				
担当講師	大澤 繭子 看護師臨床経験:10年以上 山田 緑 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:5年以上	時間数 30時間	看護医療事故の種類と構造を理解し、事故の危険因子を減らす方法について学ぶ			
教育目標	5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	医療安全を学ぶことの大切さ (序章)	医療安全に関する用語の定義 人はなぜ間違いをおかすのか 意識状態の変動と医療安全を学ぶことの意義 人間の3つの行動モデルと医療安全を学ぶことの意義 看護職を選ぶことの重さと安全努力の責務	講義	山田 緑	
	2	事故防止の考え方を学ぶ	医療事故と看護業務 看護事故の構造 看護事故防止の考え方	講義	山田 緑	
	3	診療補助業務の事故防止(1)	業務特性からみた患者に投与する業務の事故防止 インシデント・アクシデント報告 事故事例の分析方法 看護業務に必要な計算方法・事例検討	講義	山田 緑	
	4	医療安全とコミュニケーション	不正確・不十分なコミュニケーションは事故の重要要因 事故防止のための医療職間のコミュニケーション 医療事故防止のための患者とのコミュニケーション 事故の未然防止上重要なコミュニケーション	講義	山田 緑	
	5	組織的な安全管理体制への取り組み	組織としての医療安全対策 システムとしての事故防止の具体例 重大事故発生時の医療チームおよび組織の対応 医療安全対策の国内外の潮流 わが国の医療安全対策の取り組み	講義	山田 緑	
	6	療養上の世話における事故防止	療養上の世話における事故の捉え方と防止 転倒・転落事故防止 摂食中の窒息・誤嚥・異食事故防止 入浴中の事故防止	講義	大澤 繭子	
	7	診療補助業務の事故防止	内服と薬業務と事故防止 経管栄養注入業務と事故防止	講義	大澤 繭子	
	8		時間帯による療養環境の違いが引き起こす事故防止	講義		
	9		チューブ管理と事故防止 自己抜去予防・滴下ミスをどう防ぐのかを考える	講義		
	10	診療補助業務の事故防止 (注射業務に用いる機器管理)	注射業務と事故防止 注射業務に用いる機器(輸液ポンプ・シリンジポンプ関連)での事故防止	講義	大澤 繭子	
	11	診療補助業務の事故防止の実際 (注射業務に用いる機器管理)	輸注ポンプ・シリンジポンプの事故の実際	演習	大澤 繭子	事前課題:事前学習 事後課題:振り返り用紙提出
	12	看護師の労働安全衛生上の事故防止	職業感染・抗がん剤の曝露防止・放射線被爆 ラテックスアレルギー・院内暴力	講義	山田 緑	
	13	放射線被爆防止の実際 薬剤曝露防止の実際	放射線の被ばく防止策/検査時の安全確保の実施 人体へのリスクの大きい薬剤の暴露予防策の実施と気づきトレーニング	演習	山田 緑	事前課題:事前学習 事後課題:振り返り用紙提出
	14	業務領域をこえて共通する間違いと 発生要因(KYTトレーニング)	業務領域を超えて共通する患者間違い 新人特有の危険な思い込みと行動パターン	演習	山田 緑	
	15	KYTトレーニング後の振り返り	リフレクション	講義(45分)	山田 緑	
	16	終講試験	筆記試験	(45分)	山田 緑	
評価方法	筆記試験(10割) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[2] 医療安全 医学書院					

教育内容	統合分野 看護の統合と実践	時期 3年次	科目のねらい			
授業科目	看護管理・看護倫理	単位 1単位	看護におけるマネジメントについて学ぶ。また医療や看護場面で起こる倫理的問題について学ぶ			
担当講師	藤尾 泰子 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	1 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観を尊重し、倫理的判断に基づいたヒューマンケアを実践するための豊かな人間性を養う					
	4 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し看護を実践できるとともに、国際化の動向を踏まえて看護を創造するための基礎的能力を養う					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	看護とマネジメント	看護管理学とは 看護におけるマネジメント	講義	藤原 恵子	
	2	看護ケアのマネジメント	看護ケアのマネジメントと看護職の機能 患者の権利の尊重	講義	西原 伸美	
	3		安全管理 チーム医療 看護業務の実践	講義	西原 伸美	
	4	看護サービスのマネジメント	看護サービスのマネジメント 組織目標達成のマネジメント 看護サービス提供のしくみづくり 人材のマネジメント	講義	西原 伸美	
	5		施設・設備環境のマネジメント 物品のマネジメント 情報のマネジメント 組織におけるリスクマネジメント サービスの評価	講義	西原 伸美	
	6	看護を取り巻く諸制度	看護の定義 看護職 医療制度 看護政策と制度 マネジメントを考える	講義	藤原 恵子	
	7		組織マネジメントを考える 看護組織をマネジメントする	講義・演習 演習	藤原 恵子	
	8	生命倫理・看護倫理	倫理とは 価値・道徳・法律 職業倫理 生命倫理とは 生命倫理の歴史 生命倫理の4原則 現代社会における様々な倫理問題	講義	藤尾 泰子	
	9	生命倫理・看護倫理	現代社会における様々な倫理問題 ・移植医療、再生医療、遺伝子医療、死をめぐる倫理的問題 看護倫理とは 看護倫理の歴史 看護倫理の原則 看護倫理に関する重要な言葉	講義	藤尾 泰子	
	10	専門職の倫理	専門職の倫理 ケアリング、ケアの倫理 専門職の倫理的判断の構造 専門職の倫理綱領 倫理的問題へのアプローチ	講義	藤尾 泰子	事後課題:課題提出
	10	倫理的問題へのアプローチ1	倫理的問題へのアプローチ1(10ステップモデル)	講義・演習	藤尾 泰子	
	11	倫理的問題へのアプローチ1	倫理的問題へのアプローチ1(10ステップモデル)	演習	藤尾 泰子	事後課題:課題提出
	12	倫理的問題へのアプローチ2	倫理的問題へのアプローチ2(4ステップモデル)	講義・演習	藤尾 泰子	
	13	倫理的問題へのアプローチ2	倫理的問題へのアプローチ2(4ステップモデル)	演習	藤尾 泰子	事後課題:課題提出
	15	看護研究と倫理(45分)			藤尾 泰子	
16	終講試験(45分)			藤尾 泰子		
評価方法	看護管理:筆記試験(5割) 看護倫理:筆記試験(5割)、課題提出状況 但し、受験資格は履修規定、第9条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理 医学書院 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院					

教育内容	専門分野 看護の統合と実践	時期 3年次	科目のねらい			
授業科目	看護の統合と実践	単位 1単位	これまでの看護実践を通して構築した看護に対する考え方をもとに、看護実践能力の主軸となる看護実践の技術的側面と、看護実践の問題解決の側面の到達度を評価し、看護師としての課題を明確にできる			
担当講師	佐野 和美 看護師臨床経験:10年以上 教育経験:10年以上	時間数 30時間				
教育目標	1 人々との良好な人間関係を築き、信頼関係と協働的な関係を形成することで自己決定を支援することができる 2 さまざまな場に暮らすあらゆる健康状況にある人々に対して、倫理的判断と科学的根拠に基づいた看護が実践できる 3 人々を変化する環境の中で、身体的・精神的・社会的に統合された生活者として理解できる 4 生命の尊厳と人権を守り、人々の多様な価値観や生活背景・信条を持つ人に尊重した行動がとれる 5 人々の健康と豊かな生活を守る使命を自覚し、多職種と連携協調することによって支援することができる 6 看護実践を振り返り新しい知見を得て、人々の健康と豊かな生活に寄与することができる 7 看護師としての生き方を模索し、キャリア形成の礎を築くための教養を身につけることができる					
学習内容	回	項目	内容	教授法	担当講師	備考
	1	看護の統合と実践とは	各看護学の統合、看護実践能力、メタパラダイム 臨床推論・臨床判断能力育成に必要な視点を学ぶ 推論の必要性、臨床推論のプロセス	講義	佐野 和美	
	2	事例検討:A	事例Aに対してのアセスメント ①健康知覚-健康管理と必要のあるアセスメントを フォーカス	講義 グループワーク		
	3	A氏への問診・ケアの提供	事例Aの推論を基に実施・評価	演習 グループワーク		事前学習:アセスメント 看護計画
	4	事例検討:B	事例Bに対してのアセスメント ①健康知覚-健康管理と必要のあるアセスメントを フォーカス	講義 グループワーク		
	5	B氏への問診・ケアの提供	事例Bの推論を基に実施・評価	演習 グループワーク		事前学習:アセスメント 看護計画
	6	臨床現場における多重課題	臨床現場の多様さと実践能力の身につけ方 間違いを誘発する多重課題、タイムプレッシャー ケアカンファレンス・事例シミュレーション	講義		
	7	看護業務時間管理①	臨床現場での多重課題をどう克服するか 1日のスケジュール管理	講義 グループワーク		
	8	看護スケジュールの実践①	優先度・緊急度を考えた時間管理の実践	演習		事前課題:行動計画書 看護計画
	9	看護業務時間管理②	複数患者の状態変化に対応した現状把握 1日のスケジュール管理	講義 グループワーク		
	10	臨床現場における多職種連携	事例検討 どんな連携が必要となるのかを考える	グループワーク (45分)		事前課題:リハビリテーショ ン療法の科目資料を復習
	11	多職種連携の実際	理学療法・作業療法学科学生との合同講義 職種・知識・立場・背景の違いから異なって見える対象 への合同アプローチ	グループワーク		事前課題:他職種の役割・ 看護師の役割を整理する 事後課題:課題提出
	12					
	13	看護スケジュールの実践②	重要な情報を見極めた看護実践	演習		事前課題:行動計画書 看護計画
	14	シミュレーション演習	初期把握、優先順位の決定、看護実践 多重課題の実践	演習		事後課題:課題提出
	15	リフレクション	振り返り / 知識、技術、態度 自己の課題の明確化 (夜間実習を含む)統合実習へ向けて	演習 講義		事後課題:課題提出
	16	終講試験	筆記試験	試験(45分)		
評価方法	筆記試験(5割)、レポート・学習状況(5割:事例展開・発表・シミュレーション演習) 但し、受験資格は履修規定、第10条によるものとする					
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[2] 医学書院 系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 医学書院					